なごや生きもの一斉調査 2019

ひっつきむし編

報告書

実 施 日　2019年11月8日(金)・9日(土)・10日(日)

調査場所　名古屋市内の43地点

主 催　なごや生物多様性保全活動協議会

協 力　公益財団法人名古屋市みどりの協会
芹沢俊介(愛知教育大学名誉教授)　村松正雄(愛知植物の会会員)

何気ない草むらに
ひっつきむしはいます

ひっつきむしの種類もいろいろ

おもしろいぐらい
たくさんひっつきました

目　次

1. 概要 …… 1
- 1−1. はじめに
- 1−2. 調査の目的
- 1−3. 実施体制について
- 1−4. ワーキンググループについて

2. 実施内容 …… 2
- 2−1. 調査日時
- 2−2. 調査場所
- 2−3. 参加者数
- 2−4. 一斉調査の流れ
- 2−5. 調査方法

3. 見つけ採りの調査結果と考察 …… 7
- 3−1. 調査結果一覧
- 3−2. 確認種と帰化率について
- 3−3. 各調査地点における確認種数と帰化率について
- 3−4. 環境別の確認種について

4. 各調査地点で見つかったひっつきむし …… 12

5. 種別の確認地点と解説 …… 27

6. 同定資料 …… 41

7. 調査後のアンケート …… 43
- 7−1. 調査に対する満足度
- 7−2. 参加者について
- 7−3. 参加者の声　―楽しかったこと、面白かったこと―

8. 活動アルバム …… 46

1. 概要

1-1. はじめに

秋に草むらに入ると、たくさんの草の実が服についてきます。この「ひっつきむし」め、どうしてこんなにベタベタつくんだ！

実は、自分で動けない植物は、どうにかして種子を遠くに分散させなければなりません。「自分でできるだけ努力しよう」という植物もいます。英語でtouch me not（私に触らないで！）と呼ばれるホウセンカの仲間は、果実が熟すとはじけて種子を飛ばします。しかし、これでは限界があります。もっと遠くに分散させたければ、他の力を借りるほかありません。タンポポは、風の力を借りて種子を分散させます。島崎藤村の詩で有名なヤシの実は、水の力を借りる例です。

動物の力を借りる例もあります。良心的なのは、「give and takeでいこう」というものです。おいしい果実を動物に食べてもらい、その見返りに果実の中にある消化されない種子を運んでもらいます。もっとも、動物のなかにはひどいのもいて（誰ですか！）、品種改良して果実をどんどん太らせ、肝心の種子は可燃物の袋にポイ。これでは植物はたまりません。

しかし、植物だって負けてはいません。

「give and takeは嫌だ、こっそりひっついちゃえ！」

これが、今回の調査の対象にした「ひっつきむし」の正体です。ひっつかれる動物の側には何のメリットもありません。植物ズルいぞ！

けれども、こっそりつくためにはそれなりの工夫も必要です。先が鉤（かぎ）になったトゲ、あるいは粘液など、いろいろ悪知恵を働かせて、つきやすく、落ちにくいようにしています。

ひっつきむしになる植物には、日当たりの良い場所を好むものもあれば、林の中を好むものもあります。昔から日本にあった植物もあれば、外来種もあります。どこに、どのようなひっつきむしが、どのくらいあるか。これを調べてみれば、なごやの生物多様性の一端を知ることができます。特に、通常の調査では一括して「自然度が低い」とされてしまいそうな場所の中での相対的な自然度を評価するためには有効かもしれません。ついでに、植物が一生懸命考えたひっつくための工夫ものぞいてみましょう。ひっつきむしを逆手にとって、ワッペンを作ったり、タオルにならべて絵を描いたりしてもおもしろいですよ！

（芹沢俊介／愛知教育大学名誉教授）

1-2. 調査の目的

(1)　ひっつきむしを身近な公園等で調べることで、地元の自然環境に興味をもってもらい、自然に対してより関心を持ってもらう機会を提供します。
(2)　同じ場所でも、環境が異なるところに色々な種類のひっつきむしが生育していることを知っていただき、生物多様性を知ってもらうきっかけを提供します。
(3)　近年、外来種の分布が拡大している植物のうち、ひっつきむしを対象とすることで、外来種・在来種に対して関心を持ってもらう機会になります。また、外来種・在来種のひっつきむしの分布状況や生育環境を知るためのデータとして役立てます。

1-3. 実施体制について

【主　催】なごや生物多様性保全活動協議会
（事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内）
【協　力】公益財団法人名古屋市みどりの協会
芹沢俊介（愛知教育大学名誉教授）
村松正雄（愛知植物の会会員）

1-4. ワーキンググループについて

今回の一斉調査では、なごや生物多様性保全活動協議会の会長、副会長、幹事、事務局で構成されたワーキンググループを立ち上げ、調査地点の選出や調査方法の検討を行いました。

【構成メンバー】
長谷川泰洋（会長／名古屋産業大学講師）、橋本啓史（副会長／名城大学准教授）、
梅本洋子（副会長／大高花水緑の会）、小菅崇之（副会長／名東自然倶楽部）、
石原嘉則（幹事／愛知守山自然の会）、佐藤裕美子（幹事／名古屋自然観察会）、事務局

【ワーキンググループ会議】
2019年8月1日、8月22日、9月12日、10月3日

2. 実施内容

2-1. 調査日時

日　程：2019年11月8日（金）、9日（土）、10日（日）
時　間：全日程とも10：00～12：00

2-2. 調査場所

名古屋市内43地点**（表1、図1参照）**

2-3. 参加者数

のべ227人（参加者はチラシや協議会ホームページで公募）

表1．調査地点一覧

地点No.	区	調査地名	調査リーダー	調査日
1	千種	城山八幡宮	舩橋泰彦	11/ 9
2	千種	茶屋ヶ坂公園	石樽純子	11/ 9
3	千種	東山の森(いのちの森)	滝田久憲	11/ 8
4	千種	東山の森(うるおいの森)	鬼頭洋子	11/ 8
5	千種	東山の森(くらしの森)	櫻谷保之	11/ 9
6	千種	東山の森(ふれあいの森)	今尾由美子	11/ 8
7	千種	東山の森(へいわの森)	田畑恭子	11/ 9
8	千種	名古屋大学東山キャンパス	伴知幾	11/ 8
9	東	千代田橋緑地	脇田剛	11/ 8
10	東	徳川園	堀田恭史	11/ 8
11	北	名城公園(南部)	佐藤裕美子	11/10
12	北	名城公園(北部)	熊澤慶伯	11/10
13	西	庄内緑地	内藤善一	11/10
14	西	新川堤防(上小田井駅付近)	佐藤裕美子	11/ 9
15	中村	横井山緑地	村松正雄	11/ 8
16	中	名古屋城外堀	安田和代	11/10
17	中	久屋大通公園	御厨彩可	11/ 9
18	昭和	興正寺公園	眞弓浩二	11/10
19	昭和	鶴舞公園	濱中美季	11/ 8
20	瑞穂	東山荘公園	大矢晃	11/ 4
21	瑞穂	瑞穂公園	近藤記巳子	11/ 8
22	熱田	高蔵公園	藤原純子	11/ 8

地点No.	区	調査地名	調査リーダー	調査日
23	中川･港	戸田川緑地(南･中央地区)	大野政博	11/ 9
24	港	戸田川緑地(南地区)	山本佑紀	11/ 9
25	港	荒子川公園	木村えま	11/ 8
26	南	笠寺公園	近藤記巳子	11/10
27	南	呼続公園	浅井昭枝	11/10
28	守山	小幡緑地	石原則義	11/10
29	守山	翠松園緑地	日下部泰彦	11/ 8
30	守山	才井戸流	深田仁	11/ 9
31	守山	東谷山フルーツパーク	石原則義	11/ 8
32	守山	八竜湿地	田京弘一	11/10
33	緑	大高緑地(花木園)	谷幹雄	11/ 9
34	緑	大高緑地(つつじの道)	大矢芳樹	11/ 8
35	緑	新海池公園	柘植実	11/ 9
36	緑	みどりが丘公園	上田理香	11/ 8
37	名東	猪高緑地	井玉清司	11/ 9
38	名東	牧野ヶ池緑地	巾賢治	11/10
39	名東	明徳公園	布目均	11/10
40	天白	相生山緑地	近藤記巳子	11/ 9
41	天白	島田緑地	浅井聡司	11/ 9
42	天白	天白公園	黒田清典	11/ 8
43	天白	植田川河畔	西部めぐみ	10/21

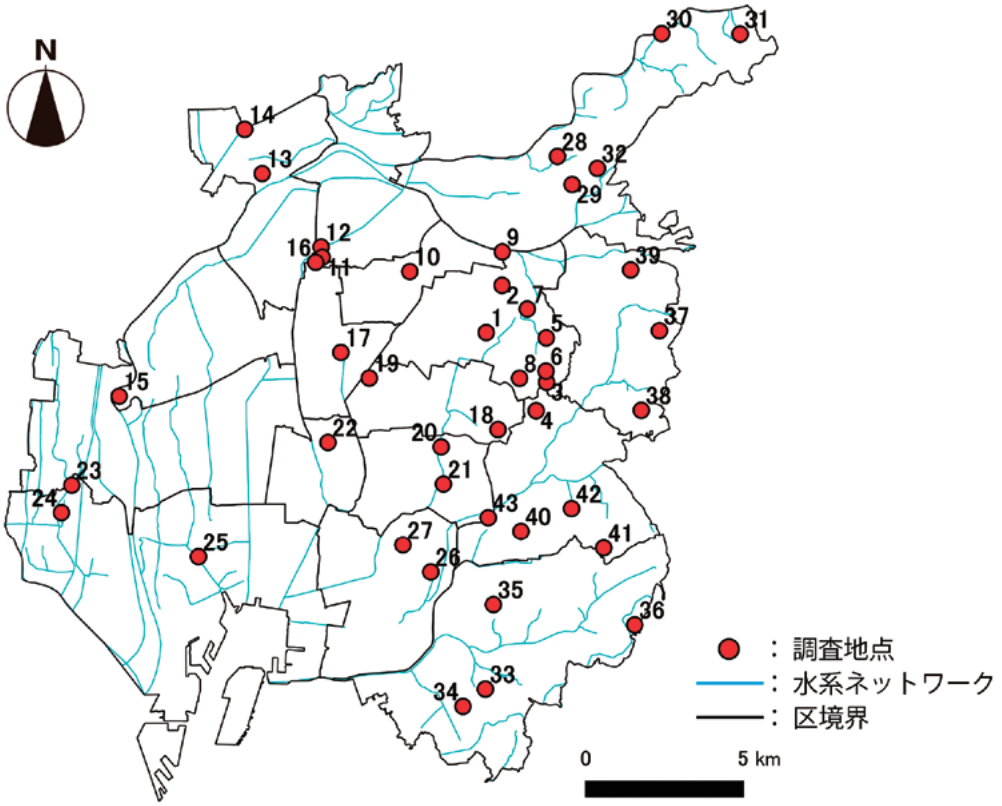


図1．調査地点の位置図

2-4. 一斉調査の流れ

図2. 事前リーダー講習会の様子

(1) 事前リーダー講習会

一斉調査では毎回、各調査地のリーダー・サブリーダーなどを対象とし、調査目的や調査方法などを説明した後、専門家(講師)が調査対象について解説するリーダー講習会(**図 2**)を実施しています。今回は以下の通り実施しました。

【日　　時】 ①10月27日(日) 10:00～12:00
②10月28日(月) 10:00～12:00
※リーダー(またはサブリーダー)は上記2日間のいずれかに出席。

【場　　所】 なごや生物多様性センター

【参加人数】 のべ71人

【講　　師】 芹沢俊介 (愛知教育大学名誉教授)

【講習会当日の流れ】

10:00～10:50　事務局(なごや生物多様性センター職員)から調査方法などを説明

10:50～11:50　講師によるひっつきむしに関する講義

(2) 調査当日

【午前】

・各調査地で参加者に同定資料(**p.41参照**)を配布。
・調査リーダーが調査の目的や方法などについて説明(**図3**)した後、調査開始。
・調査後、参加者全員で同定資料に基づいて同定を実施。

【午後】

・現地で採集したひっつきむしとその植物体の一部を調査リーダー・サブリーダーがなごや生物多様性センターに持参。その後、センターにて再同定を実施。

図3. 調査リーダーによる説明(左:名城公園、右:名古屋城外堀)

2-5. 調査方法

(1) 見つけ採り

調査地内を歩きまわり、目視でひっつきむしを探しました**(図4)**。また、見つけたひっつきむしがどのような環境(林縁や草地、湿地など)に生育しているかを観察し、生育環境**(表2)**の記録も行いました。記録後、同定用に植物体の一部を採集しました。

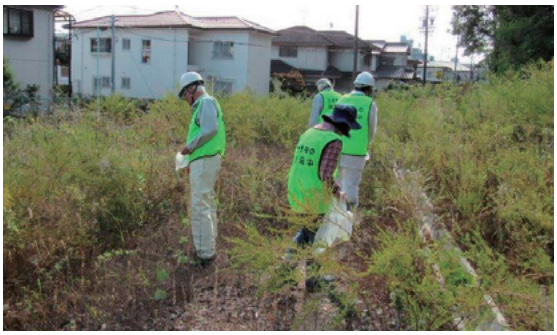


図4. 見つけ採り(天白公園)

(2) 数量調査

ひっつきむしの生育密度を調べるために、調査地内の特定の場所で約10m²の調査区画を設置し、1枚のタオル(33cm×83cm)に付着するひっつきむしの量(種子数)を調べました**(図5)**。なお、調査区画は各調査地点で1、2区画程度設置しましたが、草刈りなどの影響で適当な区画が設置できなかった地点では実施しませんでした。

図5. 数量調査
(上:横井山緑地、下:相生山緑地)

表2. 調査における生育環境の分類

環境記号	区分	生育環境
a	森林	沢沿いの雑木林
b	森林	雑木林の林床
c	森林	雑木林の林縁
d	森林	雑木林の林道
e	森林	沢沿いの竹林
f	森林	竹林の林床
g	森林	竹林の林縁
h	森林	竹林の林道
i	森林	沢沿いの植栽林(都市公園内)
j	森林	植栽林(都市公園内)の林床
k	森林	植栽林(都市公園内)の林縁
l	森林	植栽林(都市公園内)の林道
m	草地～裸地	舗装路
n	草地～裸地	未舗装路
o	草地～裸地	グラウンド・広場
p	草地～裸地	花だん
q	草地～裸地	背の高い草地(ススキなど)
r	草地～裸地	背の低い草地(芝生など)
s	草地～裸地	耕作地
t	水辺	水田・あぜ道
u	水辺	湿地・休耕田
v	水辺	ため池
w	水辺	河川敷・土手
x	服などに付着したもの	調査中に服や靴ひもに付着(付着した地点が不明)

ヌスビトハギ類の種子数量については節果または小節果**(図6)**を「1」としてカウントしました。なお、種子数が100以上の場合は「100以上」として記録しました。

★調査方法の詳細は協議会ウェブサイト(http://www.bdnagoya.jp)をご覧ください。

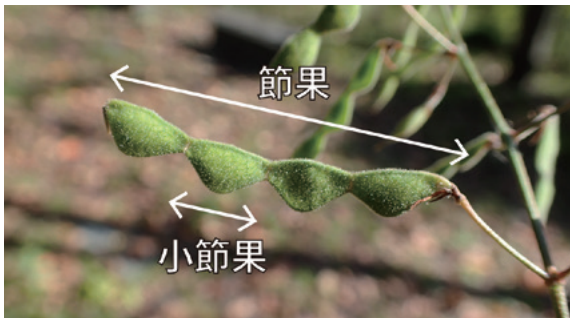


図6. 節果と小節果

(3)　同定作業、観察、ひっつきむし遊び

(1)および(2)の調査後、同定資料に基づいて同定を実施しました。その際、ひっつきむしのトゲなどをルーペでよく見ることで、ひっつく仕組みの観察も行いました**(図7)**。

また、小学生の参加者がいる地点では、ひっつきむしをタオルにくっつける「お絵かき遊び」**(図8)**や「ひっつきむしダーツ」**(図9)**も行いました。

図7．同定と観察(左：八竜湿地、右：大高緑地(つつじの道))

図8．お絵かき遊び(興正寺公園)

図9．ひっつきむしダーツ(茶屋ヶ坂公園)

(4)　再同定について

調査で採集した植物体および種子は、なごや生物多様性センター職員(西部)が再同定を実施しました。一部の植物については、芹沢俊介氏および村松正雄氏に再同定していただきました。

なお、植物体または種子が採集されなかった場合は再同定を実施せず、調査員が記載した記録内容をもとに想定される種を確定させました(※1)。

また、種子のみで再同定が困難だった場合は、「○○類」としました(※2)。

※1) 記録用紙に「センダングサ」と記載があった場合は「センダングサ類」としました。この場合、「4．各調査地点で見つかったひっつきむし」**(p12～26)**では種名に「*」を付加しました。

※2) 記録用紙に「チヂミザサ」と記載があり、採集した植物体が種子のみだった場合は「チヂミザサ類」としました。この場合、「4．各調査地点で見つかったひっつきむし」では種名に「**」を付加しました。

3. 見つけ採りの調査結果と考察

3-1. 調査結果一覧

全43調査地点で**計26種**(うち**外来種10種**)を確認することができました**(表3)**。

表3. なごや生きもの一斉調査2019結果一覧

種No.	科名	種名＼区名	千種								東		北		西		中村	中		昭和	
		地点No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
		調査地点名	城山八幡宮	茶屋ヶ坂公園	東山の森(いのちの森)	東山の森(うるおいの森)	東山の森(くらしの森)	東山の森(ふれあいの森)	東山の森(へいわの森)	名古屋大学東山キャンパス	千代田橋緑地	徳川園	名城公園(南部)	名城公園(北部)	庄内緑地	新川堤防(上小田井駅付近)	横井山緑地	名古屋城外堀	久屋大通公園	興正寺公園	鶴舞公園
1	イネ	ササクサ	●	●	●	●	●	●	●											●	
2	イネ	チヂミザサ			●	●	●	●	●	●		●					●				●
3	イネ	ケチヂミザサ	●						●					●	●			●			
4	イネ	チヂミザサ類 (注3)			●	●		●					●					●			
5	イネ	チカラシバ													●						
6	イネ	アオチカラシバ																			
7	マメ	アレチヌスビトハギ	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
8	マメ	ヌスビトハギ																			
9	マメ	ホソバアレチヌスビトハギ											▲				▲				
10	バラ	ヒメキンミズヒキ																		●	
11	バラ	キンミズヒキ				●	●														
12	ウリ	アレチウリ									▲										
13	タデ	ミズヒキ	●	●		●	●	●										●		●	
14	タデ	ギンミズヒキ																			
15	ヒユ	ヒナタイノコズチ	●	●	●		●	●	●	●	●		●			●	●	●			●
16	ヒユ	ヒカゲイノコズチ	●			●	●		●											●	
17	ヒユ	イノコズチ類 (注3)				●												●			
18	オオバコ	オオバコ		●			●														
19	キク	コバノセンダングサ	▲							▲				▲							
20	キク	アメリカセンダングサ				▲	▲	▲	▲	▲			▲		▲						▲
21	キク	コセンダングサ	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		▲		▲	▲				▲	▲
22	キク	コシロノセンダングサ														▲	▲				
23	キク	センダングサ類 (注3)	▲								▲										
24	キク	ヤブタバコ																			
25	キク	サジガンクビソウ																			
26	キク	メリケントキンソウ																			
27	キク	イガオナモミ																			
28	キク	オオオナモミ			▲		▲														
29	セリ	ヤブジラミ											●								
		種数	8	6	6	8	11	7	8	6	4	2	6	3	5	4	5	4	1	6	5
		外来(帰化)種数	3	2	3	3	4	3	3	4	3	1	4	2	3	3	3	1	1	2	3
		帰化率(%)	37.5	33.3	50.0	37.5	36.4	42.9	37.5	66.7	75.0	50.0	66.7	66.7	60.0	75.0	60.0	25.0	100.0	33.3	60.0

注1) ●は**在来種**、▲は**外来種**(帰化種)を示す。
注2) 種名の青字は**外来種**(帰化種)、赤字は**特定外来生物**を示す。
注3) 種数および帰化種数、帰化率は不確定種(チヂミザサ類、イノコズチ類、センダングサ類)を除外して算出。

瑞穂		熱田	中川・港	港		南		守山					緑				名東			天白				確認地点数	出現率（%）
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43		
東山荘公園	瑞穂公園	高蔵公園	戸田川緑地（南・中央地区）	戸田川緑地（南地区）	荒子川公園	笠寺公園	呼続公園	小幡緑地	翠松園緑地	才井戸流	東谷山フルーツパーク	八竜湿地	大高緑地（花木園）	大高緑地（うつじの道）	新海池公園	みどりが丘公園	猪高緑地	牧野ヶ池緑地	明徳公園	相生山緑地	島田緑地	天白公園	植田川河畔		
●								●				●	●		●		●	●	●	●				17	39.5
		●	●					●	●			●	●	●		●	●	●	●	●				21	48.8
							●			●	●		●									●		10	23.3
		●					●				●					●	●			●				11	25.6
								●	●	●				●			●	●	●	●				9	20.9
								●																1	2.3
▲	▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	41	95.3
													●	●			●	●	●					5	11.6
									▲															3	7.0
												●					●							3	7.0
								●					●				●	●		●		●		8	18.6
																								1	2.3
						●			●	●		●		●			●	●	●	●		●		17	39.5
								●									●			●				3	7.0
	●	●	●	●	●	●	●			●	●		●	●	●	●	●	●		●				29	67.4
								●	●			●	●			●	●	●	●	●		●		15	34.9
				●																●				4	9.3
		●	●				●		●	●				●			●	●	●			●		12	27.9
▲													▲				▲							6	14.0
				▲	▲			▲	▲	▲	▲		▲				▲	▲						17	39.5
▲	▲	▲		▲	▲				▲					▲	▲	▲	▲	▲		▲		▲	▲	28	65.1
				▲																				3	7.0
																								2	4.7
												●												1	2.3
												●						●						2	4.7
																		▲						1	2.3
																							▲	1	2.3
										▲			▲	▲									▲	6	14.0
																								1	2.3
4	3	4	4	5	4	3	4	9	8	8	4	8	11	9	4	5	15	14	8	10	1	7	4		
3	2	1	1	4	3	1	1	2	3	3	2	1	4	3	2	2	4	4	1	2	1	2	4		
75.0	66.7	25.0	25.0	80.0	75.0	33.3	25.0	22.2	37.5	37.5	50.0	12.5	36.4	33.3	50.0	40.0	26.7	28.6	12.5	20.0	100.0	28.6	100.0		

3-2. 確認種と帰化率について

今回の調査で確認された26種のうち、上位10種は**表4**の通りです。

最も多くの地点で見つかった種は**外来種**の**アレチヌスビトハギ(p29参照)**で、全43の調査地点のうち、高蔵公園(No.22)と翠松園緑地(No.29)を除く**41地点**で確認されました。一方、**在来種**の**ヌスビトハギ(p30参照)**は大高緑地(No.33、No.34)、猪高緑地(No.37)、牧野ヶ池緑地(No.38)、明徳公園(No.39)の**5地点**でのみ確認されました。

この2種について確認された地点の**帰化率**(確認種数における外来種数の割合)を比較してみると、**アレチヌスビトハギ**は12.5～100.0%と帰化率が低い地点から高い地点まで確認されていることから、外来種・在来種の比率に関係なく生育していることがわかります。一方、**ヌスビトハギ**は12.5～36.4%と帰化率が低い地点でしか確認できませんでした。

表4. 確認種ランキング

順位	種No.	種名	確認地点数
1	7	アレチヌスビトハギ	41
2	15	ヒナタイノコズチ	29
3	21	コセンダングサ	28
4	2	チヂミザサ	21
5	1	ササクサ	17
6	13	ミズヒキ	17
7	20	アメリカセンダングサ	17
8	16	ヒカゲイノコズチ	15
9	18	オオバコ	12
10	3	ケチヂミザサ	10

青字は外来種を示す。

また、**在来種**の**ササクサ**は43地点中17地点で確認されましたが、そのうち15地点は帰化率が50%未満でした。また、同じく**在来種**の**ミズヒキ**も17地点で確認されており、そのすべてで帰化率が約40%未満でした**(表3)**。

ヌスビトハギ、ササクサ、ミズヒキはいずれも林縁(りんえん)に生育する植物ですが、「ひっつきむし」という植物でみると、これらは比較的良好な自然環境の指標種になると思われます。

なお、**在来種**の**オオバコ**は43地点中12地点で確認されましたが、いずれの地点でも帰化率は40%未満でした。オオバコはひっつきむしとしてはやや特殊であるため、調査時に見落とした可能性もありますが、ヌスビトハギなどと異なり、開けた場所に生育する植物であるため、近縁の外来種であるツボミオオバコやヘラオオバコ**(p34参照)**に圧迫されている可能性があります。

3-3. 各調査地点における確認種数と帰化率について

確認種数が多かった調査地点は**表5**の通りです。名古屋市の東部には雑木林のある比較的自然度の高い大型緑地公園がいくつかありますが、そうした公園ではひっつきむしの多様性も高いことがわかりました。

今回の調査では、1地点あたり**平均6種**のひっつきむしを確認することができましたが、調査直前に公園管理の関係で**草刈り**が実施された調査地が多数あったため、調査当日は1～3種しか確認できなかった地点が6地点ありました**(表3)**。しかし、草刈りはある程度広い場所(公園)であれば刈り残しも多少はあると思われるので、確認種数が少なかった調査地はもともとひっつきむしの種類数が少ないのかもしれません。

表5. 確認種数が多かった地点

順位	地点No.	地点名	確認種数
1	37	猪高緑地	15
2	38	牧野ヶ池緑地	14
3	5	東山の森(くらしの森)	11
3	33	大高緑地(花木園)	11
4	34	大高緑地(つつじの道)	10
4	40	相生山緑地	10
5	28	小幡緑地	9
5	29	翠松園緑地	9
5	30	才井戸流	9

帰化率が高かった地点は**表6**、低かった地点は**表7**の通りです。

帰化率と各地点で確認された種数の関係をみると、負の相関（相関係数−0.59）がある、つまり、帰化率が高い地点ほど種数が少ない傾向があることがわかりました**（図10）**。

表6．帰化率が高い地点

順位	地点No.	地点名	帰化率(%)
1	17	久屋大通公園	100.0
1	41	島田緑地	100.0
1	43	植田川河畔	100.0
2	24	戸田川緑地（南地区）	80.0
3	9	千代田橋緑地	75.0
3	14	新川堤防（上小田井駅付近）	75.0
3	20	東山荘公園	75.0
3	25	荒子川公園	75.0
4	8	名古屋大学東山キャンパス	66.7
4	12	名城公園（北部）	66.7

表7．帰化率が低い地点

順位	地点No.	地点名	帰化率(%)
1	39	明徳公園	12.5
1	32	八竜湿地	12.5
2	40	相生山緑地	20.0
3	28	小幡緑地	22.2
4	27	呼続公園	25.0
4	23	戸田川緑地（南・中央地区）	25.0
4	22	高蔵公園	25.0
4	16	名古屋城外堀	25.0
5	37	猪高緑地	26.7
6	42	天白公園	28.6
6	38	牧野ヶ池緑地	28.6

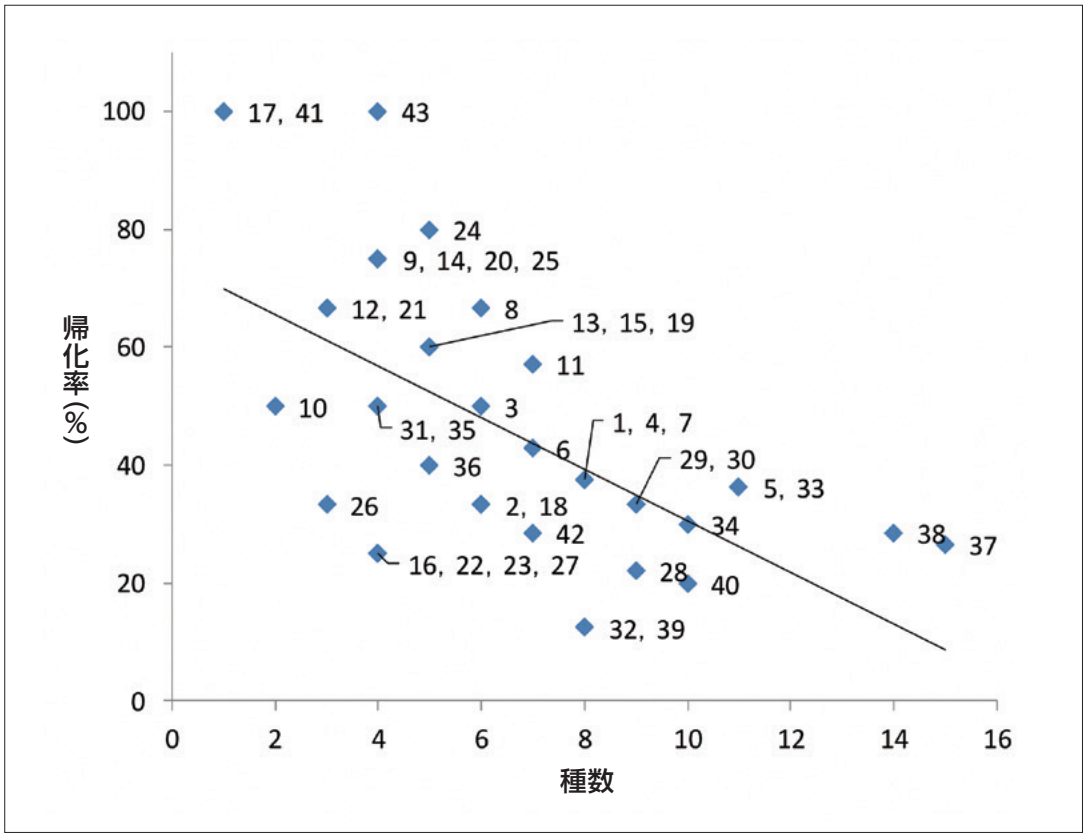


図10．帰化率と各地点における確認種数の関係

図中の数字は調査地点 No.を示す。

3-4. 環境別の確認種について

最も多くの地点で確認された**アレチヌスビトハギ**は、今回調査されなかった沢沿いの環境（a, e, i）を除くほぼすべての環境で確認されていることから**（表8）**、その繁殖力の強さがわかります。

また、**在来種**の**チヂミザサ**や**ヒナタイノコズチ**、**外来種**の**コセンダングサ**は、舗装路などの乾燥した環境から、雑木林や湿地などの比較的湿潤な環境まで**様々な環境下に生育**していることがわかりました。これらの種は**表4（p9）**に示した確認種ランキングでも上位の種であることから、様々な環境に適応できることは種の分布拡大に優位に働くことがわかります。

表8. 環境別確認種

環境記号	環境区分＼種名	種No.	1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18	19	20	21	22	24	25	26	27	28	29	種数
			ササクサ	チヂミザサ	ケチヂミザサ	チカラシバ	アオチカラシバ	アレチヌスビトハギ	ヌスビトハギ	ホソバアレチヌスビトハギ	ヒメキンミズヒキ	キンミズヒキ	アレチウリ	ミズヒキ	ギンミズヒキ	ヒナタイノコズチ	ヒカゲイノコズチ	オオバコ	コバノセンダングサ	アメリカセンダングサ	コセンダングサ	コシロノセンダングサ	ヤブタバコ	サジガンクビソウ	メリケントキンソウ	イガオナモミ	オオナモミ	ヤブジラミ	
a	沢沿いの雑木林																												0
b	雑木林の林床		●	●	●			●									●				●			●					7
c	雑木林の林縁		●	●	●	●		●	●		●	●		●	●	●	●		●	●	●								15
d	雑木林の林道		●	●	●	●		●	●			●		●		●	●	●			●								12
e	沢沿いの竹林																												0
f	竹林の林床				●			●						●			●	●			●								6
g	竹林の林縁			●					●			●		●			●												5
h	竹林の林道		●															●											2
i	沢沿いの植栽林(都市公園内)																												0
j	植栽林(都市公園内)の林床			●		●	●	●		●						●		●											7
k	植栽林(都市公園内)の林縁		●	●	●			●								●	●	●		●	●								9
l	植栽林(都市公園内)の林道		●	●	●			●							●	●	●				●								8
m	舗装路		●	●		●		●								●			●		●						●		8
n	未舗装路							●		●		●				●	●	●		●	●								8
o	グラウンド・広場			●		●		●	●	●				●		●		●		●	●				●		●		12
p	花だん							●						●		●													3
q	背の高い草地(ススキなど)				●	●		●				●				●				●	●						●		8
r	背の低い草地(芝生など)			●				●	●							●		●		●	●	●							8
s	耕作地			●				●				●		●		●	●		●		●								8
t	水田・あぜ道																			●									1
u	湿地・休耕田		●	●	●	●		●			●	●		●		●	●	●		●	●		●				●		15
v	ため池		●	●	●			●								●	●			●									7
w	河川敷・土手							●			●		●			●			●	●	●	●				●	●		10
x	調査中に服や靴ひもに付着（付着した地点が不明）		●	●		●	●	●	●		●	●		●		●	●			●	●	●					●	●	16
	環境区分数		10	14	9	8	2	18	6	3	4	8	1	9	2	16	12	9	4	12	14	3	1	1	1	1	6	1	

青字は**外来種**、赤字は**特定外来生物**を示す。

4. 各調査地点で見つかったひっつきむし

・表中のNo.は**表3**(p7、8)と対応。
・見つけ採りの種数は**表3**と対応。
・見つけ採りの生育環境および数量調査の調査環境のアルファベットは**表2**(p5)と対応。
・青字は**外来種**(帰化種)、赤字は**特定外来生物**を示す。
・「*」は再同定を実施しなかった種、「**」は再同定で種の確定ができなかった種を示す。(詳細はp6「(4)再同定について」参照)

千種区

1. 城山八幡宮

【見つけ採り】8種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	m
3	ケチヂミザサ	c
7	**アレチヌスビトハギ**	c
13	ミズヒキ	c
15	ヒナタイノコズチ	r
16	ヒカゲイノコズチ	c
19	**コバノセンダングサ**	c
21	**コセンダングサ**	c, o

【数量調査】3種(調査環境：r)

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	100以上
4	チヂミザサ類 **	11
23	**センダングサ類** *	1

2. 茶屋ヶ坂公園

【見つけ採り】6種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	d
7	**アレチヌスビトハギ**	d
13	ミズヒキ	d
15	ヒナタイノコズチ	d
18	オオバコ	d
21	**コセンダングサ**	d

【数量調査】5種(調査環境：d)

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	3
7	**アレチヌスビトハギ**	16
13	ミズヒキ	30
15	ヒナタイノコズチ	90
21	**コセンダングサ**	70

3. 東山の森(いのちの森)

【見つけ採り】6種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	k, x
2	チヂミザサ	k, m
7	**アレチヌスビトハギ**	k, m
15	ヒナタイノコズチ	k, m
21	**コセンダングサ**	m
28	**オオオナモミ**	m

【数量調査】3種(調査環境：k)

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
7	**アレチヌスビトハギ**	16
15	ヒナタイノコズチ	4

4. 東山の森（うるおいの森）

【見つけ採り】8種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	c, u, x
2	チヂミザサ	c
7	アレチヌスビトハギ	c, u, x
11	キンミズヒキ	c, x
13	ミズヒキ	c, x
16	ヒカゲイノコズチ	c, u
20	アメリカセンダングサ	c, u
21	コセンダングサ	c

千種区 東山の森（くらしの森）

【数量調査①】5種（調査環境：c）

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	33
4	チヂミザサ類 **	100以上
7	アレチヌスビトハギ	16
13	ミズヒキ	100以上
16	ヒカゲイノコズチ	30

【数量調査②】5種（調査環境：u）

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	26
4	チヂミザサ類 **	15
11	キンミズヒキ	23
16	ヒカゲイノコズチ	36
20	アメリカセンダングサ	100以上

5. 東山の森（くらしの森）

【見つけ採り】11種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	b
2	チヂミザサ	c
7	アレチヌスビトハギ	u, x
11	キンミズヒキ	u
13	ミズヒキ	g
15	ヒナタイノコズチ	u, x
16	ヒカゲイノコズチ	x
18	オオバコ	r
20	アメリカセンダングサ	u, x
21	コセンダングサ	u
28	オオオナモミ	u, x

【数量調査①】4種（調査環境：b）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	3
7	アレチヌスビトハギ	100以上
15	ヒナタイノコズチ	100以上
16	ヒカゲイノコズチ	100以上

【数量調査②】3種（調査環境：u）

No.	種名	種子数量
20	アメリカセンダングサ	100以上
21	コセンダングサ	100以上
28	オオオナモミ	93

6. 東山の森（ふれあいの森）

【見つけ採り】7種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	d, c, x
2	チヂミザサ	d, c
7	アレチヌスビトハギ	m, x
13	ミズヒキ	p
15	ヒナタイノコズチ	c, m
20	アメリカセンダングサ	c
21	コセンダングサ	m

【数量調査①】3種（調査環境：c）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
7	アレチヌスビトハギ	100以上
16	ヒカゲイノコズチ	80

【数量調査②】2種（調査環境：m）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
21	コセンダングサ	100以上

7. 東山の森（へいわの森）

【見つけ採り】8種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	b, d
2	チヂミザサ	b, k
3	ケチヂミザサ	d, k, v
7	アレチヌスビトハギ	c, j, m, q, r
15	ヒナタイノコズチ	c, d, k, v
16	ヒカゲイノコズチ	k
20	アメリカセンダングサ	k
21	コセンダングサ	b

【数量調査】4種（調査環境：d）

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	100以上
4	チヂミザサ類 **	20
16	ヒカゲイノコズチ	100以上
23	センダングサ類 *	1

8. 名古屋大学東山キャンパス

【見つけ採り】6種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	s
7	アレチヌスビトハギ	s
15	ヒナタイノコズチ	s, x
19	コバノセンダングサ	s
20	アメリカセンダングサ	q, x
21	コセンダングサ	s

【数量調査】1種（調査環境：q）

No.	種名	種子数量
20	アメリカセンダングサ	100以上

東区

9. 千代田橋緑地

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	w
12	アレチウリ	w
15	ヒナタイノコズチ	w
21	コセンダングサ	w

【数量調査①】2種（調査環境：w）

No.	種名	種子数量
15	ヒナタイノコズチ	100以上
21	コセンダングサ	100以上

【数量調査②】2種（調査環境：w）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
15	ヒナタイノコズチ	100以上

10. 徳川園

【見つけ採り】2種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	m
7	アレチヌスビトハギ	m, r

【数量調査】未実施

北区

11. 名城公園（南部）

【見つけ採り】6種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	m, x
9	ホソバアレチヌスビトハギ	n
15	ヒナタイノコズチ	m, n
20	アメリカセンダングサ	n, v, x
21	コセンダングサ	n
29	ヤブジラミ	x

【数量調査】4種（調査環境：v）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
15	ヒナタイノコズチ	16
20	アメリカセンダングサ	68
21	コセンダングサ	43

12. 名城公園（北部）

【見つけ採り】3種

No.	種名	生育環境
3	ケチヂミザサ	l
7	アレチヌスビトハギ	w, x
19	コバノセンダングサ	w

【数量調査①】2種（調査環境：l）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
23	センダングサ類 **	11

【数量調査②】2種（調査環境：w）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
20	アメリカセンダングサ	4

西区

13. 庄内緑地

【見つけ採り】5種

No.	種名	生育環境
3	ケチヂミザサ	q
5	チカラシバ	q
7	アレチヌスビトハギ	k
20	アメリカセンダングサ	q
21	コセンダングサ	k

【数量調査】3種（調査環境：k）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
20	アメリカセンダングサ	1
21	コセンダングサ	100以上

14. 新川堤防（上小田井駅付近）

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	w
15	ヒナタイノコズチ	m
21	コセンダングサ	w
22	コシロノセンダングサ	w

【数量調査】2種（調査環境：w）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
23	センダングサ類 **	100以上

中村区

15. 横井山緑地

【見つけ採り】5種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	r, x
7	アレチヌスビトハギ	j, r, x
9	ホソバアレチヌスビトハギ	j
15	ヒナタイノコズチ	j, r
22	コシロノセンダングサ	r, x

【数量調査】2種（調査環境：r）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	80
15	ヒナタイノコズチ	40

中区

16. 名古屋城外堀

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
3	ケチヂミザサ	c
7	アレチヌスビトハギ	q
13	ミズヒキ	c, q
15	ヒナタイノコズチ	q

【数量調査】2種（調査環境：c）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
15	ヒナタイノコズチ	100以上

17. 久屋大通公園

【見つけ採り】1種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	p

【数量調査】未実施

昭和区

18. 興正寺公園

【見つけ採り】6種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	c, x
7	アレチヌスビトハギ	c, x
10	ヒメキンミズヒキ	c, x
13	ミズヒキ	c
16	ヒカゲイノコズチ	c, x
21	コセンダングサ	c, x

【数量調査】2種（調査環境：c）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	8
16	ヒカゲイノコズチ	100以上

19. 鶴舞公園

【見つけ採り】5種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	k
7	アレチヌスビトハギ	k, m, r, v, w, x
15	ヒナタイノコズチ	c, n
20	アメリカセンダングサ	u, v
21	コセンダングサ	m, n

【数量調査】1種（調査環境：n）

No.	種名	種子数量
23	センダングサ類 **	100以上

瑞穂区

20. 東山荘公園

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	c
7	アレチヌスビトハギ	c
19	コバノセンダングサ	c
21	コセンダングサ	c

【数量調査】3種（調査環境：c）

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	100以上
7	アレチヌスビトハギ	13
21	コセンダングサ	100以上

21. 瑞穂公園

【見つけ採り】3種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	o
15	ヒナタイノコズチ	o
21	コセンダングサ	o

【数量調査】1種（調査環境：o）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	58

熱田区

22. 高蔵公園

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	j
15	ヒナタイノコズチ	j, k
18	オオバコ	j
21	コセンダングサ	m

【数量調査】未実施

中川区・港区

23. 戸田川緑地（南・中央地区）

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	d
7	アレチヌスビトハギ	b
15	ヒナタイノコズチ	c, n
18	オオバコ	n

【数量調査①】1種（調査環境：b）

No.	種名	種子数量
15	ヒナタイノコズチ	100以上

【数量調査②】1種（調査環境：c）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上

【数量調査③】1種（調査環境：w）

No.	種名	種子数量
21	コセンダングサ	100以上

港区

24. 戸田川緑地（南地区）

【見つけ採り】5種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	j, k, r, x
15	ヒナタイノコズチ	k, r
20	アメリカセンダングサ	w
21	コセンダングサ	k, r, w
22	コシロノセンダングサ	r

【数量調査】1種（調査環境：r）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	25

25. 荒子川公園

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	q, r
15	ヒナタイノコズチ	r, w
20	アメリカセンダングサ	r
21	コセンダングサ	q, r

【数量調査①】2種（調査環境：r）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
21	コセンダングサ	100以上

【数量調査②】1種（調査環境：r）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上

南区

26. 笠寺公園

【見つけ採り】3種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	o, x
13	ミズヒキ	p
15	ヒナタイノコズチ	p

【数量調査】未実施

27. 呼続公園

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
3	ケチヂミザサ	k
7	アレチヌスビトハギ	k, r
15	ヒナタイノコズチ	j, k
18	オオバコ	k

【数量調査①】2種(調査環境：r)

No.	種名	種子数量
3	ケチヂミザサ	10
7	アレチヌスビトハギ	100以上

【数量調査②】2種(調査環境：r)

No.	種名	種子数量
5	チカラシバ	30
7	アレチヌスビトハギ	100以上

守山区

28. 小幡緑地

【見つけ採り】9種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	l
2	チヂミザサ	l
5	チカラシバ	j
6	アオチカラシバ	j, x
7	アレチヌスビトハギ	l
11	キンミズヒキ	u
14	ギンミズヒキ	l
16	ヒカゲイノコズチ	l
20	アメリカセンダングサ	l

【数量調査】3種(調査環境：l)

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	100以上
4	チヂミザサ類 **	100以上
7	アレチヌスビトハギ	100以上

29. 翠松園緑地

【見つけ採り】8種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	c
5	チカラシバ	o
9	ホソバアレチヌスビトハギ	o
13	ミズヒキ	c
16	ヒカゲイノコズチ	n
18	オオバコ	n
20	アメリカセンダングサ	o
21	コセンダングサ	o

【数量調査】未実施

30. 才井戸流

【見つけ採り】8種

No.	種名	生育環境
3	ケチヂミザサ	u
5	チカラシバ	u
7	アレチヌスビトハギ	u
13	ミズヒキ	u
15	ヒナタイノコズチ	u
18	オオバコ	u
20	アメリカセンダングサ	u
28	オオオナモミ	u

【数量調査①】2種(調査環境：u)

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	35
13	ミズヒキ	100以上

【数量調査②】3種(調査環境：u)

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
13	ミズヒキ	100以上
15	ヒナタイノコズチ	50

31. 東谷山フルーツパーク

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
3	ケチヂミザサ	l
7	アレチヌスビトハギ	l
15	ヒナタイノコズチ	l
20	アメリカセンダングサ	l

【数量調査】4種(調査環境：l)

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
7	アレチヌスビトハギ	100以上
15	ヒナタイノコズチ	100以上
20	アメリカセンダングサ	10

32. 八竜湿地

【見つけ採り】8種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	u, x
2	チヂミザサ	u
7	アレチヌスビトハギ	u, x
10	ヒメキンミズヒキ	u
13	ミズヒキ	u
16	ヒカゲイノコズチ	u
24	ヤブタバコ	u
25	サジガンクビソウ	u

【数量調査】3種（調査環境：u）

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	5
4	チヂミザサ類 **	95
10	ヒメキンミズヒキ	50

緑区

33. 大高緑地（花木園）

【見つけ採り】11種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	b
2	チヂミザサ	x
3	ケチヂミザサ	b
7	アレチヌスビトハギ	n
8	ヌスビトハギ	c, x
11	キンミズヒキ	n, q
15	ヒナタイノコズチ	u, k, c
16	ヒカゲイノコズチ	b
19	コバノセンダングサ	m
20	アメリカセンダングサ	u
28	オオオナモミ	q, x

緑区 大高緑地（花木園）

【数量調査①】1種（調査環境：u）

No.	種名	種子数量
5	チカラシバ	45

【数量調査②】3種（調査環境：q）

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	100以上
4	チヂミザサ類 **	100以上
8	ヌスビトハギ	50

【数量調査③】2種（調査環境：q）

No.	種名	種子数量
11	キンミズヒキ	5
28	オオオナモミ	25

34. 大高緑地（つつじの道）

【見つけ採り】9種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	o
5	チカラシバ	o
7	アレチヌスビトハギ	o
8	ヌスビトハギ	o
13	ミズヒキ	o
15	ヒナタイノコズチ	o
18	オオバコ	o
21	コセンダングサ	o
28	オオオナモミ	o

【数量調査】4種（調査環境：o）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
13	ミズヒキ	3
15	ヒナタイノコズチ	100以上
21	コセンダングサ	100以上

35. 新海池公園

【見つけ採り】4種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	x
7	アレチヌスビトハギ	w
15	ヒナタイノコズチ	w
21	コセンダングサ	w

【数量調査①】1種（調査環境：b）

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	100以上

【数量調査②】1種（調査環境：p）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上

36. みどりが丘公園

【見つけ採り】5種

No.	種名	生育環境
2	チヂミザサ	c, d
7	アレチヌスビトハギ	c, q, w, x
15	ヒナタイノコズチ	c, d, w
16	ヒカゲイノコズチ	d
21	コセンダングサ	c, q, x

【数量調査①】4種（調査環境：c）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	49
7	アレチヌスビトハギ	2
15	ヒナタイノコズチ	11
21	コセンダングサ	68

【数量調査②】1種（調査環境：b）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上

名東区

37. 猪高緑地

【見つけ採り】15種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	h
2	チヂミザサ	s, g
5	チカラシバ	d
7	アレチヌスビトハギ	s, x
8	ヌスビトハギ	g, x
10	ヒメキンミズヒキ	w
11	キンミズヒキ	s
13	ミズヒキ	s,g
14	ギンミズヒキ	c
15	ヒナタイノコズチ	c
16	ヒカゲイノコズチ	c, g, s, x
18	オオバコ	h
19	コバノセンダングサ	s
20	アメリカセンダングサ	t
21	コセンダングサ	c, s, x

【数量調査】6種（調査環境：g）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
7	アレチヌスビトハギ	100以上
8	ヌスビトハギ	20
15	ヒナタイノコズチ	100以上
16	ヒカゲイノコズチ	100以上
21	コセンダングサ	50

38. 牧野ヶ池緑地

【見つけ採り】14種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	d
2	チヂミザサ	o, v
5	チカラシバ	m
7	アレチヌスビトハギ	d, v, x
8	ヌスビトハギ	r
11	キンミズヒキ	d
13	ミズヒキ	d
15	ヒナタイノコズチ	m
16	ヒカゲイノコズチ	b, v
18	オオバコ	o
20	アメリカセンダングサ	v
21	コセンダングサ	d
25	サジガンクビソウ	b
26	メリケントキンソウ	o

【数量調査】3種（調査環境：q, r）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
11	キンミズヒキ	100以上
16	ヒカゲイノコズチ	64

名東区 牧野ヶ池緑地

39. 明徳公園

【見つけ採り】8種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	d, x
2	チヂミザサ	c, x
5	チカラシバ	c
7	アレチヌスビトハギ	d, x
8	ヌスビトハギ	c, d, x
13	ミズヒキ	c, x
16	ヒカゲイノコズチ	b, c
18	オオバコ	o

【数量調査】4種（調査環境：d）

No.	種名	種子数量
1	ササクサ	9
4	チヂミザサ類 **	100以上
8	ヌスビトハギ	100以上
13	ミズヒキ	100以上

名東区 明徳公園

天白区

40. 相生山緑地

【見つけ採り】10種

No.	種名	生育環境
1	ササクサ	c
2	チヂミザサ	g
5	チカラシバ *	x
7	アレチヌスビトハギ	c, s, x
11	キンミズヒキ	c, d, g, x
13	ミズヒキ	c
14	ギンミズヒキ	c
15	ヒナタイノコズチ	c
16	ヒカゲイノコズチ	c
21	コセンダングサ	c, n, s, x

【数量調査】2種（調査環境：q）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
21	コセンダングサ	6

41. 島田緑地

【見つけ採り】1種

No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ *	b, c, p

【数量調査】未実施

42. 天白公園

【見つけ採り】7種

No.	種名	生育環境
3	ケチヂミザサ	f
7	アレチヌスビトハギ	f, q
11	キンミズヒキ	q
13	ミズヒキ	f
16	ヒカゲイノコズチ	f
18	オオバコ	f
21	コセンダングサ	q

【数量調査①】2種（調査環境：f）

No.	種名	種子数量
4	チヂミザサ類 **	100以上
7	アレチヌスビトハギ	100以上

【数量調査②】3種（調査環境：q）

No.	種名	種子数量
7	アレチヌスビトハギ	100以上
11	キンミズヒキ	100以上
21	コセンダングサ	100以上

天白区 天白公園

43. 植田川河畔

【見つけ採り】4種

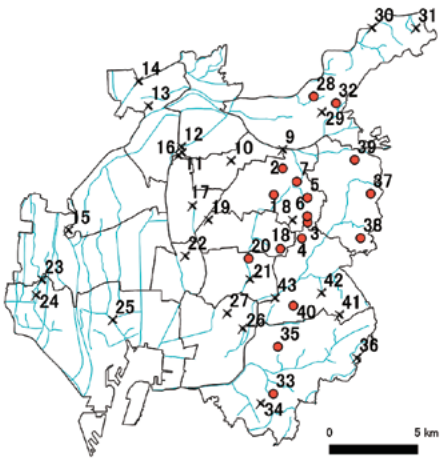
No.	種名	生育環境
7	アレチヌスビトハギ	w
19	コセンダングサ	w
27	イガオナモミ	w
28	オオオナモミ	w

【数量調査】未実施

5. 種別の確認地点と解説

・種No.は**表3(p7，8)**と対応。

1. ササクサ(イネ科) 確認地点数：17

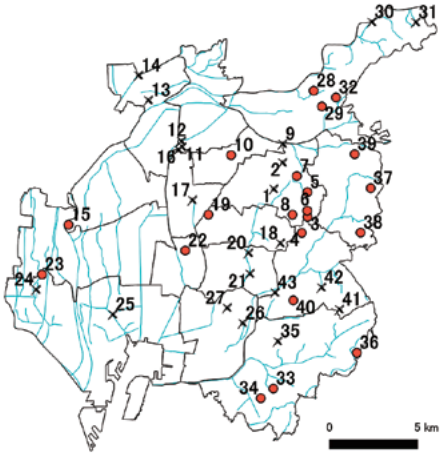


山野の林床(りんしょう)や山道沿いに生えるイネ科の多年草で、ササに似た草であることからこの和名が付きました。草丈40～80㎝、8～11月頃に穂をつけます。小穂(しょうすい)の先端にある逆トゲのついた針状の突起で動物に付着します。

本調査では城山八幡宮(No.1)や東山の森(No.3～7)など、比較的森林環境が残されている場所で確認されました。

ササクサの小穂

2. チヂミザサ(イネ科) 確認地点数：21



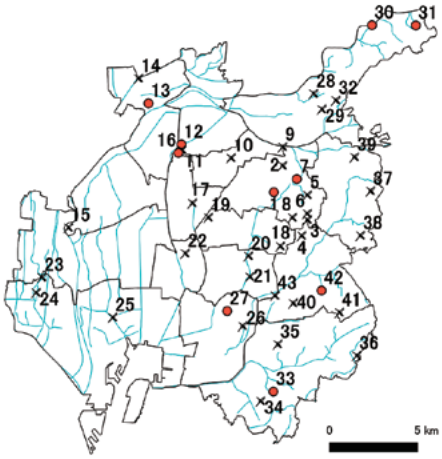
チヂミザサの葉(左)と花序(右)

山野の林床に生えるイネ科の多年草で、縁が縮れたササのような葉をつけることからこの和名が付きました。草丈10～30㎝、8～10月に5～15㎝の花序を付けます。小穂が熟すと芒(のぎ)から粘液を出して動物に付着します。

本調査では、葉や穂の軸などに毛が無いまたはあっても短毛のものを**チヂミザサ**、長毛がある変種を**ケチヂミザサ**としました。

両種ともササクサと同様に、小幡緑地(No.28)など比較的森林環境が残されている場所で確認されました。

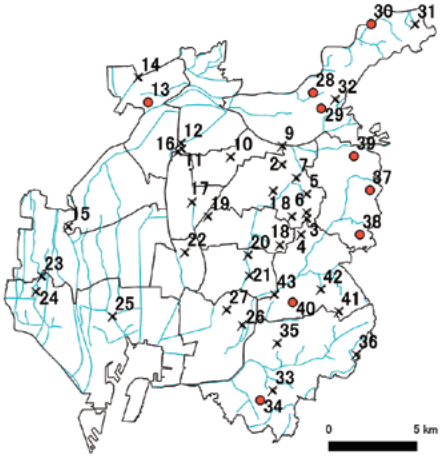
3. ケチヂミザサ(イネ科) 確認地点数：10



ケチヂミザサ

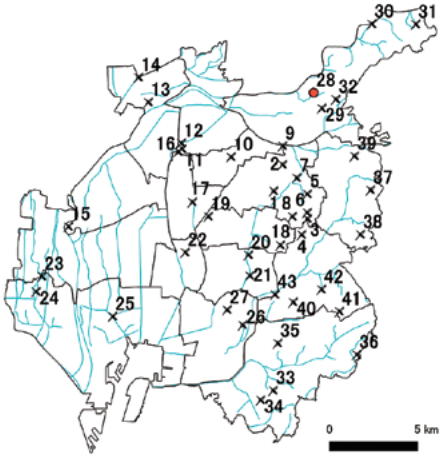
5. チカラシバ（イネ科）

確認地点数：9



6. アオチカラシバ（イネ科）

確認地点数：1

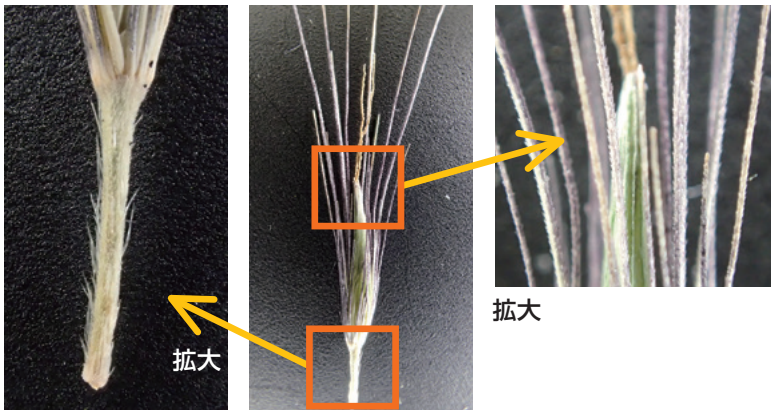


草地や道端などの乾燥した場所に生えるイネ科の多年草で、和名は「引き抜くときに力が必要な芝」という意味です。草丈30～80㎝、8～11月に紫色の剛毛（総苞毛）のある花穂を付けます。小穂の柄にトゲ状の毛が生えており、この部分で動物にくっつきます。総苞毛にも細かなトゲがあります。

チカラシバは庄内緑地（No.13）や小幡緑地（No.28）など9地点で確認されました。総苞毛の色が淡緑色のものは**アオチカラシバ**という品種で、小幡緑地（No.28）でのみ確認されました。

チカラシバ（芹沢俊介撮影）

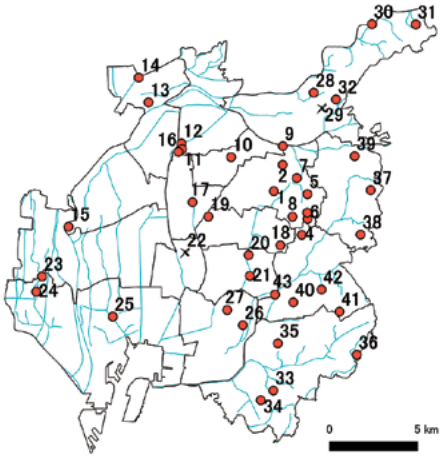
左：チカラシバ
右：アオチカラシバ



チカラシバの小穂

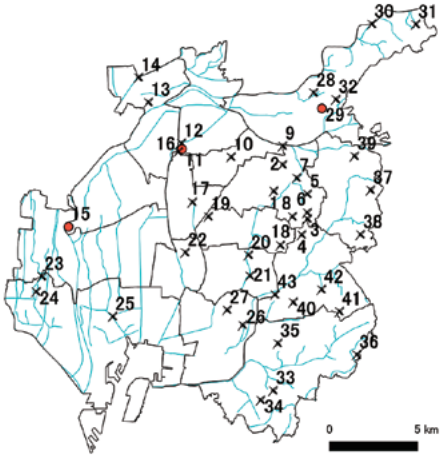
7. アレチヌスビトハギ（マメ科）

確認地点数：41



9. ホソバアレチヌスビトハギ（マメ科）

確認地点数：3

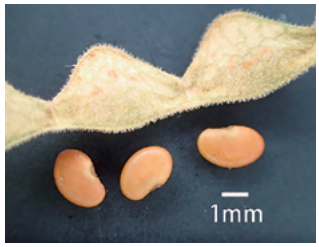


両種とも**北アメリカ原産**の多年草で、市街地の日当たりの良い空き地や道端など、在来種の**ヌスビトハギ**より明るいところに生育します。草丈30～100㎝、9～10月に開花し、その後実を付けます。節がある実を節果（せっか）、節に区切られた部分を小節果（しょうせっか）といい**（p5参照）**、**アレチヌスビトハギ**は小節果が3～5個連なります。実の表面に先端がカギ状にまがった細かい毛がびっしりと生えているため、動物などによく付着します。

アレチヌスビトハギは全43地点中、高蔵公園（No.22）と翠松園緑地（No.29）を除く41地点で確認されました。

ホソバアレチヌスビトハギはアレチヌスビトハギの一型で、葉が細長くやや光沢を帯びるのが特徴です。名城公園（南部）（No.11）、横井山緑地（No.15）、翠松園緑地（No.29）の3地点で確認されました。

アレチヌスビトハギの
節果表面の毛

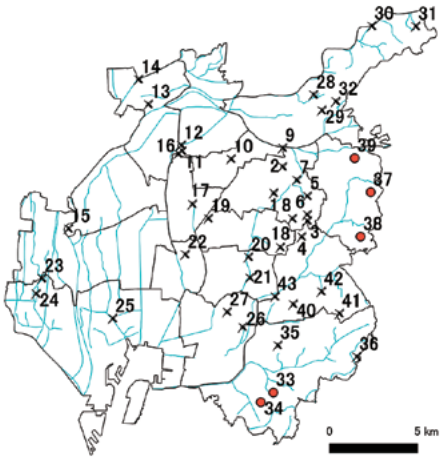


アレチヌスビトハギの
節果（上）と種子（下）

アレチヌスビトハギ

ホソバアレチヌスビトハギ
（村松正雄撮影）

8. ヌスビトハギ（マメ科） 確認地点数：5



ヌスビトハギ（芹沢俊介撮影）

在来種の多年草で、山道沿いや林縁（りんえん）、草原に生えます。草丈60～120㎝、7～9月に開花します。実は半月形の小節果（しょうせつか）が1～2個連なります。

和名の由来は、実の形がつま先立ちで忍び歩く盗人（ぬすびと）の足跡に見えるからだといわれています。

本調査では大高緑地（No.33、No.34）、猪高緑地（No.37）、牧野ヶ池緑地（No.38）、明徳公園（No.39）で確認されました。

ヌスビトハギの
節果（上）と種子（下）

ひっつきむしと間違えられた植物　～カナムグラ～

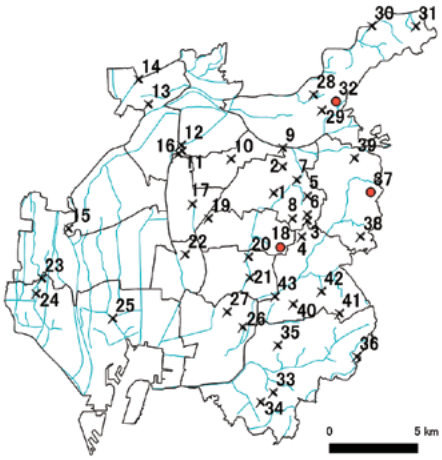
今回の調査では、カナムグラを採集した調査地点が数地点ありました。

カナムグラはアサ科の一年生ツル植物で、茎や葉柄に下向きの細かいトゲが多数あります。藪（やぶ）の中を進んでいくと、服に絡みついてくることがあるため、「ひっつきむし?」と思ってしまいます。しかし、実にはトゲなどの動物にひっつく仕組みはありません。

そのため、今回の調査ではひっつきむしとして取り扱いませんでした。

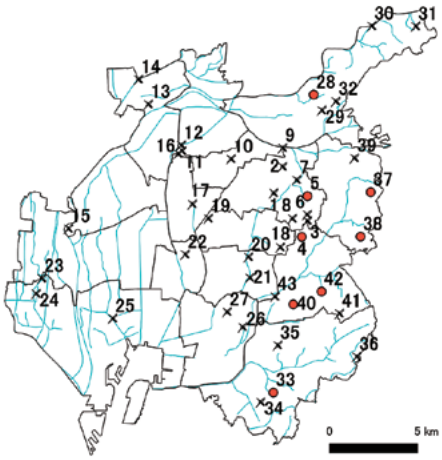
10. ヒメキンミズヒキ（バラ科）

確認地点数：3



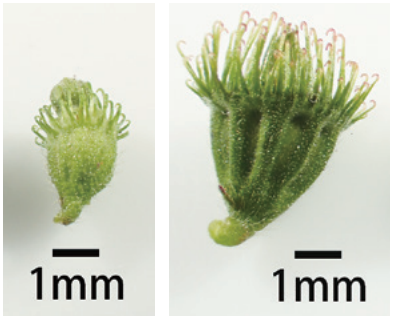
11. キンミズヒキ（バラ科）

確認地点数：8



ヒメキンミズヒキは山地や丘陵地の林床（りんしょう）や林縁（りんえん）などに生える多年草で、草丈30～80㎝、8～10月に開花します。キンミズヒキよりも実（花床筒（かしょうとう））は小さく（3㎜程度）、花序に花がまばらにつきます。本調査では興正寺公園（No.18）、八竜湿地（No.32）、猪高緑地（No.37）の3地点で確認されました。

キンミズヒキは低地や山地に普通にみられる多年草で、高さ50～100㎝、8～10月に開花します。ヒメキンミズヒキよりも実は一回り大きく（5㎜程度）、花序に花がやや密につきます。本調査では東山の森（No.5）、小幡緑地（No.28）など8地点で確認されました。



左：ヒメキンミズヒキの実
右：キンミズヒキの実

両種とも実の縁にカギ状にまがったトゲがあり、これで動物などに付着します。

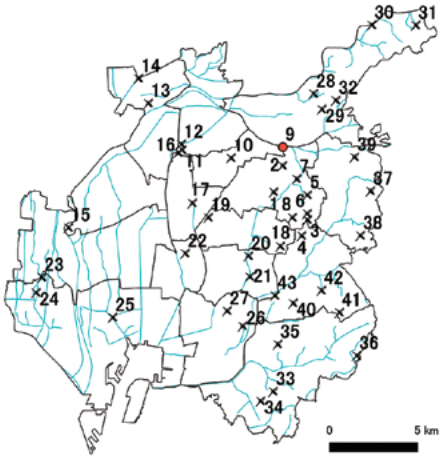
和名の由来は花序が**ミズヒキ**に似ていることから「金色のミズヒキ」という意味ですが、ミズヒキ**（p32参照）**はタデ科で、バラ科のキンミズヒキ・ヒメキンミズヒキとは異なる仲間です。

ヒメキンミズヒキ
（村松正雄撮影）

キンミズヒキ（村松正雄撮影）

キンミズヒキの実

12. アレチウリ（ウリ科）　確認地点数：1



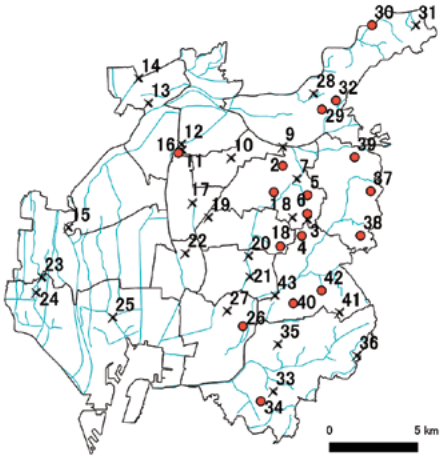
北アメリカ原産の一年草で、**特定外来生物**に指定されています。

河川敷や道端などに生えますが、つる性の茎は長さ数m～十数mも伸び、大人の手のひらよりも大きい葉であたり一面を覆い尽くしてしまい、他の植物の生長を妨げます。葉や茎にトゲがありますが、実には特に硬く鋭いトゲがあります。

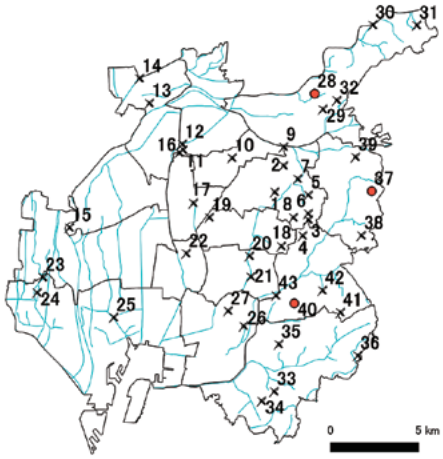
本調査では千代田橋緑地（No.9）でのみ確認されました。

上：花、下：実

13. ミズヒキ（タデ科）
確認地点数：17



14. ギンミズヒキ（タデ科）
確認地点数：3



藪（やぶ）や林縁（りんえん）に生える多年草で、草丈50～80㎝、8～10月に開花します。実には先端がカギ状にまがった花柱が残っており、これで動物などに付着します。

和名は花弁（花被片）が上半分は赤色、下半分が白色の様子を「水引」に例えたことに由来します。

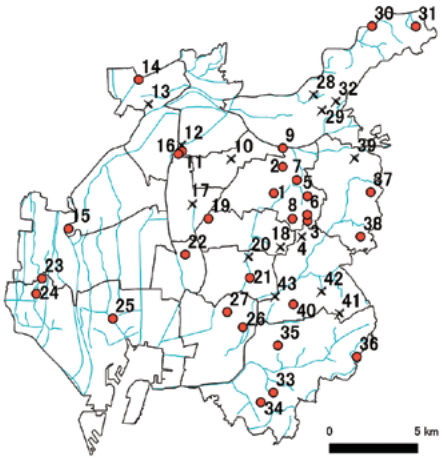
ミズヒキは茶屋ヶ坂公園（No.2）、名古屋城外堀（No.16）、など17地点で確認されました。白花のものは**ギンミズヒキ**といい、本調査では小幡緑地（No.28）と猪高緑地（No.37）、相生山緑地（No.40）の3地点で確認されました。

ミズヒキ（左）とギンミズヒキ（右）（村松正雄撮影）

ミズヒキの花（左）と実（右）

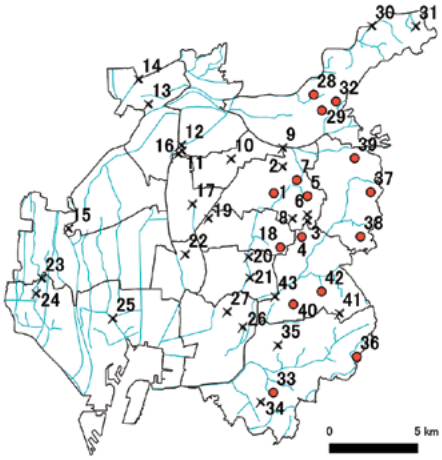
15. ヒナタイノコズチ（ヒユ科）

確認地点数：29



16. ヒカゲイノコズチ（ヒユ科）

確認地点数：15



ヒナタイノコズチは市街地の道端や荒地に生える多年草で、草丈0.5～1m、8～9月に開花します。**ヒカゲイノコズチ**より葉や茎に毛が多く、特に若葉の裏は白く見えるほど毛が密生します。本調査では城山八幡宮（No.1）や名城公園（南部）（No.11）など29地点で確認されました。

ヒカゲイノコズチは山野の林内や竹藪（たけやぶ）など、あまり日の当たらないところに生える多年草で、草丈0.5～1m、8～9月に開花します。本調査では興正寺公園（No.18）や翠松園緑地（No.29）など15地点で確認されました。

両種とも実は5mm程度で、その付け根にはトゲがあり、これでクリップのように動物などに引っかかります。トゲの基部には耳状の付属片があり、この付属片のサイズの違いが両種を見分けるポイントとなります。

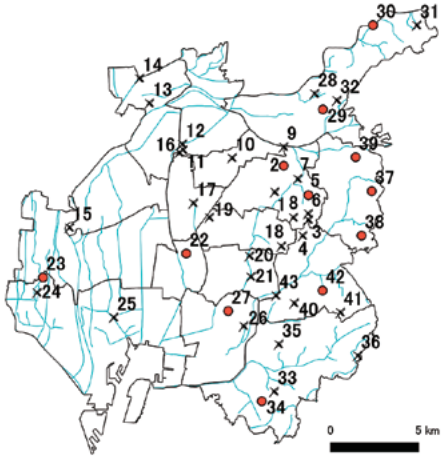
ヒナタイノコズチ

ヒナタイノコズチの実

ヒカゲイノコズチの実（左）と種子（右）

タオルに引っかかった
ヒカゲイノコズチの実

18. オオバコ（オオバコ科） 確認地点数：12



人通りがあるような道端や、公園の踏み固められた場所などの日当たりの良い場所で多くみられる多年草で、葉は長さ4～15㎝、幅3～8㎝、4～9月に草丈10～20cmの花茎を伸ばします。実は熟すと上下に割れる蒴果（さくか）で、種子は雨や朝露で濡れると粘液をまとい、動物の足や人間の靴裏に付着して運ばれます。

オオバコは漢字で書くと「大葉子」ですが、葉が大きく広いことからこの和名がついています。
本調査では翠松園緑地（No.29）や牧野ヶ池緑地（No.38）など12地点で確認されました。

オオバコ

水に濡れる前の種子

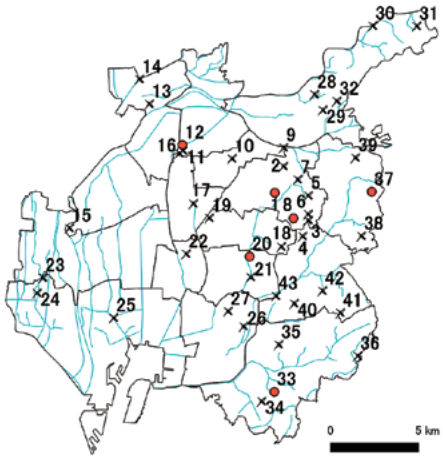
水に濡れた種子が
ピンセットに付く様子

名古屋市内で確認される外来のオオバコ

ヘラオオバコ

ツボミオオバコ
（村松正雄撮影）

19. コバノセンダングサ（キク科）　確認地点数：6



コバノセンダングサの花（村松正雄撮影）と実

南アジア原産の一年草で、畑地や荒地、道端などに生育します。草丈30～90㎝、8～10月に開花します。

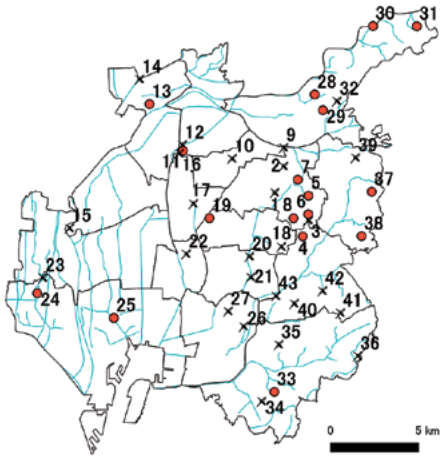
コセンダングサに似ていますが、2～3回羽状の葉が深く切れ込むことが見分けるポイントです。

実は長さ10～18㎜、先端に3～4本（時に2本）のトゲがあり、そのトゲには細かな逆向きのトゲがあります。実が熟すと花床（かしょう）が反り返るため、放射状に広がります。

なお、センダングサ属は**アメリカセンダングサ**など扁平（へんぺい）な種子をつける種類以外は実の外部形態での区別が難しく、実のみで同定することは困難です。そのため、今回の調査で同定のポイントとなる葉や頭花（とうか）などの植物体が採集されていなかった場合は「センダングサ類」としました。

コバノセンダングサは名古屋大学東山キャンパス（No.8）や東山荘公園（No.20）など6地点で確認されました。

20. アメリカセンダングサ（キク科）　確認地点数：17



アメリカセンダングサの花と実

北アメリカ原産の一年草で、湿り気のある荒地や道端に生育します。草丈0.5～1.5m、9～10月に開花します。

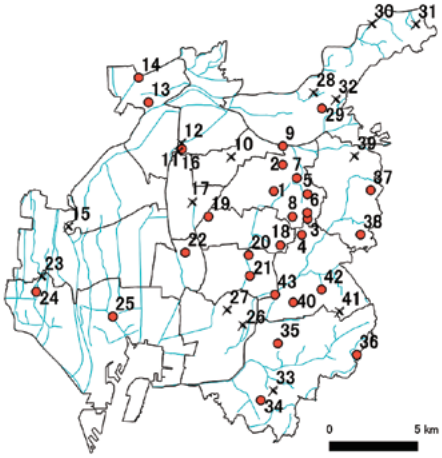
コセンダングサのように黄色の頭花をつけますが、それを取り囲む総苞片（そうほうへん）が葉のように大きく目立つ点が特徴です。茎は暗褐色で4角柱状に角ばっています。

実は長さ6～10mm、扁平で幅が広く、先端には2本のトゲがあり、そのトゲには細かな逆向きのトゲがあります。実は熟すと放射状に広がります。

本調査では東山の森（ふれあいの森）（No.6）や鶴舞公園（No.19）など17地点で確認されました。

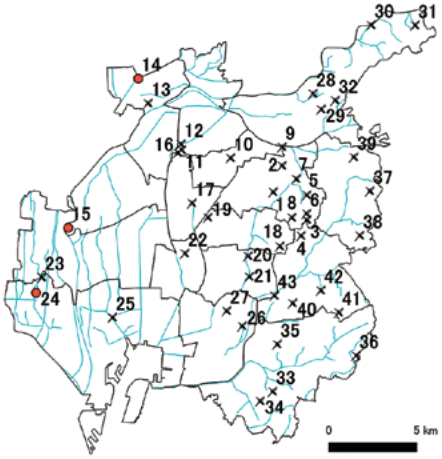
21. コセンダングサ（キク科）

確認地点数：28



22. コシロノセンダングサ（キク科）

確認地点数：3



熱帯アメリカ原産の一年草で、荒地や河原、あぜ道などに群生します。草丈0.5～1.1m、9～11月に開花します。上部の枝先に黄色の頭花（とうか）をつけますが、この頭花に白い舌状花（ぜつじょうか）がある変種を**コシロノセンダングサ**といい、道端や河原などで**コセンダングサ**に混じって生えています。舌状花がより大きいものはシロノセンダングサとよばれますが、今回は区別しませんでした。

実の先端には3～4本（時に2本）のトゲがあり、そのトゲには細かな逆向きのトゲがあります。実は熟すと放射状に広がります。

コセンダングサは瑞穂公園（No.21）や荒子川公園（No.25）など28地点で確認されました。

コシロノセンダングサは千代田橋緑地（No.9）、新川堤防（No.14）、横井山緑地（No.15）の3地点で確認されました。

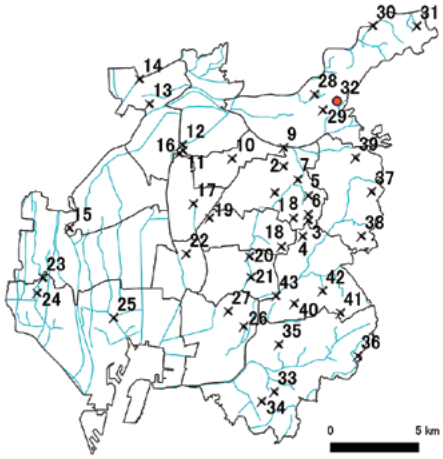
コセンダングサの花と
未熟な実（右）
（村松正雄撮影）

コセンダングサの
熟した実（上）と実の拡大（左）

コシロノセンダングサ標本（芹沢俊介提供）

シロノセンダングサの花（村松正雄撮影）

24. ヤブタバコ（キク科） 確認地点数：1



ヤブタバコ（村松正雄撮影）

頭花（村松正雄撮影）

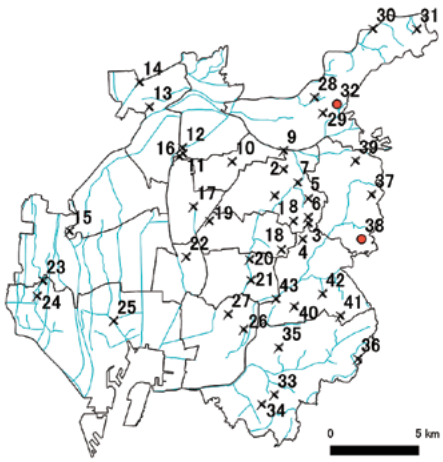
藪や林縁に生える一～二年草です。草丈0.5～1m、9～10月に開花します。上部の葉腋に黄色の下向きの頭花を1個ずつつけます。頭花は直径約1cmでほとんど柄がありません。実は長さ約3.5mmの円柱形で、粘液でべたつきます。

和名は藪に生え、根生葉や下部の葉がタバコの葉に似ていることに由来しています。

本調査では八竜湿地（No.32）のみで確認されました。

ヤブタバコの実

25. サジガンクビソウ（キク科） 確認地点数：2



頭花

サジガンクビソウ

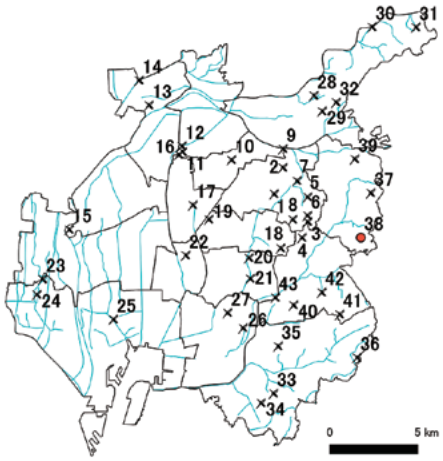
やや乾いた山地の木陰などに生える多年草です。草丈25～50cm、8～10月に開花します。頭花は直径8～15mm、ロゼット状の根生葉が開花期にもあります。実は長さ約3.5mmの円柱形で、**ヤブタバコ**と同じように粘液でべたつきます。

和名は下向きにつく頭花が煙管の雁首に似ていることに由来しています。

本調査では八竜湿地（No.32）と牧野ヶ池緑地（No.38）で確認されました。

サジガンクビソウの実

26. メリケントキンソウ（キク科） 確認地点数：1



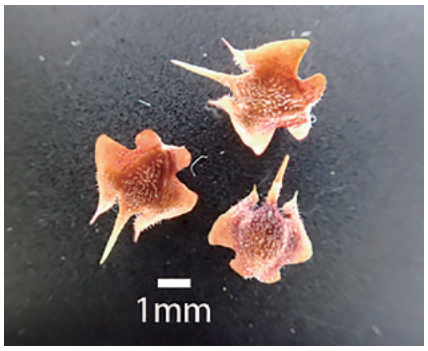
南アメリカ原産の越年草で、日当たりの良い公園や芝地の地面に這うように生育します。草丈5㎝程、4～5月に開花します。

本調査では牧野ヶ池緑地（No.38）のみでの確認でしたが、市内では庄内緑地（西区）や戸田川緑地（港区）、笠寺公園（南区）などでも確認されています。実にある鋭いトゲが靴裏などに刺さることで分布を広げます。

本種は外来生物法などの法令による指定はありませんが、実のトゲが手などに刺さると非常に痛く、公園利用者が怪我をする可能性があるため、市内の公園では抜き取り会や注意喚起を促す看板設置などが行われています。

メリケントキンソウ

頭状花

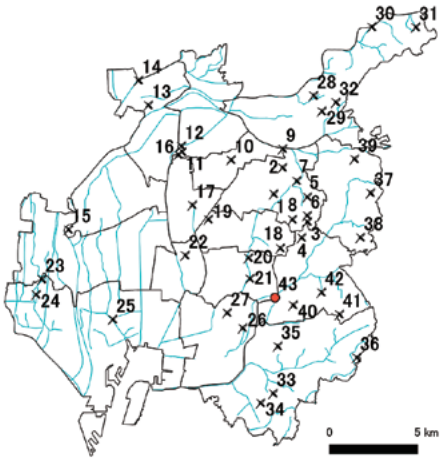


メリケントキンソウの実

靴裏に刺さった実

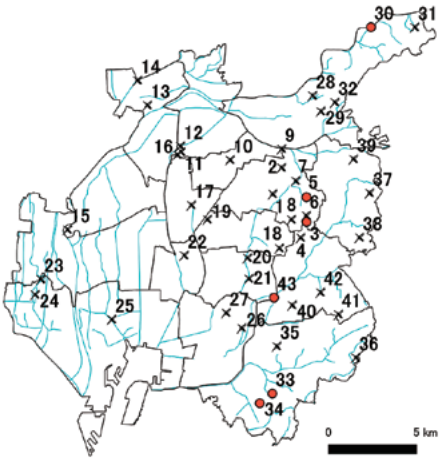
27. イガオナモミ（キク科）

確認地点数：1



28. オオオナモミ（キク科）

確認地点数：6



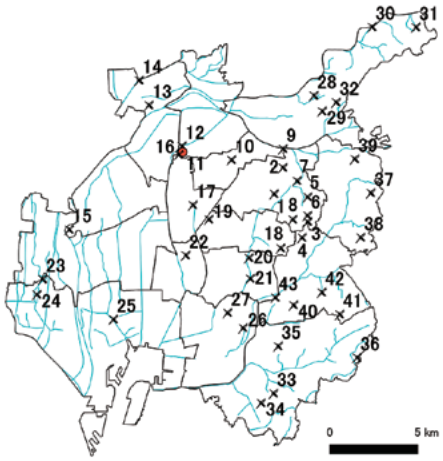
イガオナモミは**ヨーロッパ原産**の一年草で、草丈0.5～1.5m、7～10月に開花します。実は長さ2～3cmで、頂端に2個の角があり、全面に先端がカギ状に曲がった長さ3～6mmのトゲが生えています。実の表面やトゲには鱗片（りんぺん）状の毛が密生します。本調査では植田川河畔（No.43）でのみ確認されました。

オオオナモミは**北アメリカ原産**の一年草で、草丈0.5～2m、8～11月に開花します。実は長さ1.8～2.5cmで、イガオナモミと同様に頂端に角があり、全面に先端が曲がったトゲが生えています。実の表面やトゲには細かい毛がまばらにありますが、イガオナモミのような鱗片状の毛はありません。本調査では東山の森（No.3、No.5）や大高緑地（No.33、No.34）など6地点で確認されました。

イガオナモミ

オオオナモミ

29. ヤブジラミ（セリ科） 確認地点数：1



野原や道端に生える越年草で、草丈30～70㎝、5～7月に白く小さな花をつけます。実は2.5～3.5㎜で、熟すと淡褐色になります。なお、ヤブジラミに似ているオヤブジラミはヤブジラミより花期がやや早く、花弁の縁や実の毛の先が紅紫色を帯びるのが特徴で、実は5～6㎜、熟すと黒色になります。両種とも実にはカギ状にまがった毛が密生しており、これで動物などに付着します。

和名は藪（やぶ）に生え、実が衣服などにつく様子をシラミに例えたことが由来です。

通常6～7月頃に結実するため、今回の調査時期には見られないのですが、かろうじて残っていた枯草の実が名城公園（南部）（No.11）の調査員の服に付着したため、確認することができました。

ヤブジラミの花（左）と実（右）

オヤブジラミの実

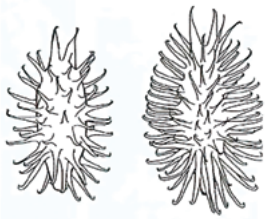
参考文献

林弥栄（監修）・門田裕一（改訂版監修）（2013）『野に咲く花 増補改訂新版』（山渓ハンディ図鑑），山と渓谷社，東京.
伊藤ふくお・丸山健一郎（2009）『ひっつきむしの図鑑　フィールド版』，トンボ出版，大阪.
岩槻秀明（2010）『ふしぎが楽しい ひっつき虫観察便利帳』，株式会社いかだ社，東京.
大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編）（2016）『改訂新版 日本の野生植物 第2巻』，平凡社，東京.
大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編）（2016）『改訂新版 日本の野生植物 第3巻』，平凡社，東京.
大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編）（2017）『改訂新版 日本の野生植物 第4巻』，平凡社，東京.
大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編）（2017）『改訂新版 日本の野生植物 第5巻』，平凡社，東京.
清水建美（編）（2003）『日本の帰化植物』，平凡社，東京.
清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七（編・著）（2001）『日本帰化植物写真図鑑』，全国農村教育協会，東京.
植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹（編・著）（2010）『日本帰化植物写真図鑑　第2巻』，全国農村教育協会，東京.

写真撮影者

注釈がない写真はセンター職員（西部）が撮影。

6. 同定資料

分類	種名		2種の違い
	オオオナモミ	イガオナモミ	
オナモミ類 ひっつきむしのタイプ カギ・トゲ	外	外	 オオオナモミ　イガオナモミ
特 徴	2種とも一年草で、空き地や河原に生える。 実はオオオナモミよりイガオナモミの方が大きく、トゲも多い。		

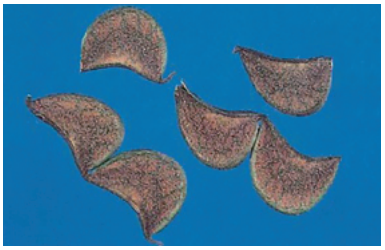
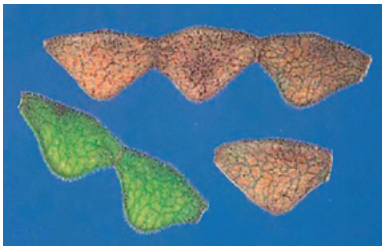
分類	種名		
	タウコギ	アメリカセンダングサ	コセンダングサ
センダングサ類 ひっつきむしのタイプ カギ・トゲ	在 実の側面に 逆向き（下向き） のトゲがある。	外	外
特 徴	水田周辺や河原などで多くみられる一年草。タウコギやアメリカセンダングサは実が扁平であるが、コセンダングサなどは実が針状。		

分類	全体の様子	種名	
		ヒカゲイノコズチ	ヒナタイノコズチ
イノコズチ類 ひっつきむしのタイプ クリップ		在	在
特 徴	山野の林縁や竹やぶに生える多年草。ヒナタイノコズチの方が日当たりが良い場所に生える。2種とも実のサイズは約5㎜。		

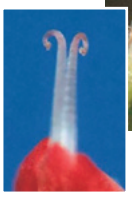
分類	全体の様子	種名	
		キンミズヒキ	ヒメキンミズヒキ
キンミズヒキ類 ひっつきむしのタイプ カギ・トゲ		在	在
特 徴	山野の林縁に生える多年草。 実はキンミズヒキよりヒメキンミズヒキの方が小さい。		

在 在来種　外 外来種　特 特定外来生物

引用文献
伊藤ふくお・丸山健一郎(2009)『ひっつきむしの図鑑　フィールド版』，トンボ出版，大阪.
岩槻秀明(2010)『ふしぎが楽しい ひっつき虫観察便利帳』，株式会社いかだ社，東京.

分類	種名	
	ヌスビトハギ	アレチヌスビトハギ
ヌスビトハギ類 ひっつきむしのタイプ マジックテープ	 在	 外
特徴	2種とも多年草で、アレチヌスビトハギは市街地の道端などでよく見られる。 アレチヌスビトハギに比べてヌスビトハギの方が果実の節がくびれる。	

分類	全体の様子	種名 チヂミザサ
チヂミザサ類 ひっつきむしのタイプ 粘液		在
特徴	山野の林床に生える多年草。笹に似た葉が波打っている様子から「縮み笹」との和名が付いた。小穂が熟すと芒(のぎ)に粘液が出る。	

分類	全体の様子	種名 ミズヒキ
ミズヒキ類 ひっつきむしのタイプ カギ・トゲ		 在
特徴	山野の林縁に生える多年草。紅白の色に分かれる実を「水引」に例えた和名。実になっても雌しべの花柱が残る。この先端がフック状。ミズヒキの他にシンミズヒキなどがある。	

分類	種名	
	ササクサ	アレチウリ
その他	在	特
ひっつきむしのタイプ	**カギ・トゲ**	**カギ・トゲ**
特徴	山野の林床や山道沿いに生える多年草。「笹に似た葉の草」という意味の和名。小穂の先端に針状の突起がある。	河原や土手などに生えるツル性の一年草。クズと競合する場所もある。葉や茎には細かいトゲが多数あり、果実にも鋭いトゲがある。

7. 調査後のアンケート

7-1. 調査に対する満足度

図11に示した通り、「楽しかった」または「やや楽しかった」と回答した人が100%でした。その理由として、ひっつきむしに意外と多くの種類があること、その植物名を知れたことが楽しかったとの意見が多数得られました。同時に、本調査の目的でもある身近な自然を楽しく観察できたと回答いただけた参加者も複数いました。

さらに、調査道中に出会った草花や昆虫などの生物について、リーダーおよびサブリーダーが楽しく解説してくれたことも好評でした。

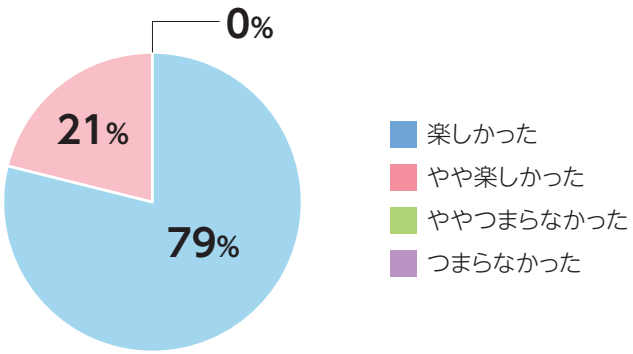


図11. 調査に対する満足度

7-2. 参加者について

年代別の参加者割合は**図12**に示した通りです。今回の調査は夏休みなどの長期休暇外の実施でしたが、一定数の10代の学生さんたちにも参加いただけたようです。ただ、20代は3%と極端に少ない結果となりました。

また、公募方法別の参加者割合は**図13**に示した通りです。このうち、「広報なごや」「ウェブサイト」「配布チラシ」といった協議会関係者以外の市民が手に取りやすい媒体による応募が計33%であるのに対し、「友人・知人」「案内メール」が計46%、内訳が関係者からの連絡を含む「その他」が21%という状況でした。このことから、すでに協議会活動に参加した経験がある方が参加者の半数近くを占めていることがわかります。

そのため、今後はより幅広い年代や、普段生き物に接する機会があまりない市民にも参加いただけるよう、学校などでの周知やSNSの活用など、より様々なツールを使った広報手段を検討する必要があると思われます。

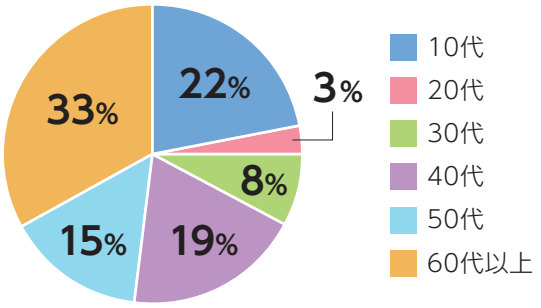


図12. 年代別の参加者割合

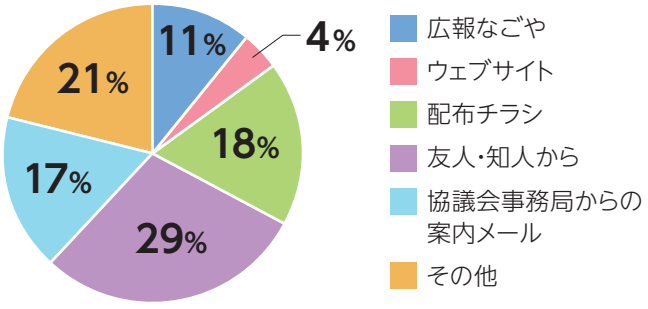


図13. 公募方法別の参加者割合

7-3. 参加者の声 ― 楽しかったこと、面白かったこと ―

（アンケートより一部抜粋）

調査全体について

図14. ルーペで観察（茶屋ヶ坂公園）

- 普段は深く注目することがなかったが、ひっつきむしの種類を色々知ることができよかった。
- 今まで知らない植物に触れ合い、知らなかった植物の特徴を少しでも知れた。
- 身近な場所の植物について知ることができ楽しかった。
- 普段と違った植物の見方が楽しかった。
- 普段歩かない所を歩いて違った角度で様々な発見があった、草を見て歩くのはよい経験になった。
- 知らなかった草の名前が判った、同じような草でもルーペで見ると違う種類と分かる。
- 散策しながら日頃意識しない植物に目を向けた、思った以上に種類がありルーペで違いがあることに気づけた。
- ひっつきむしはじめ色々な植物の知識を得ることができた。
- 足元の色々な植物の名前が分かって面白かった。
- ひっつきむしや昆虫など色々な生物に会えた、外堀にも入れた。
- どんな草がくっつくかという目線で探したことがなく、名前や由来を聞いてまた面白くなった。
- 普段触れることにない生き物に興味がもてる。
- 普段あまり見ることがない足元の草をじっくり観察できた、こんなにたくさんの種類があるとは知らなかった。
- 以前から知っていた場所を改めて見直してよかった。
- 秋の穏やかな半日に散策も兼ね植物観察ができた。
- 同定しながらワイワイ話しながら森を歩いたこと。
- 楽しみながら観察することができた。

ひっつきむしについて

- ひっつきむしが生えている状態を初めて見た。
- いつも散歩している道にこれだけのひっつきむしがあることに驚いた、ミズヒキがひっつきむしと初めて知った。
- 身近な自然の中にも思ったより多くのひっつきむしが見つかった。
- ひっつきむしが総称とは知らなかった、色々種類がありタイプも分かれていることが目新しく感じた。
- いつもはうっとおしいひっつきむしだが調べてみると改めてわかった。
- ひっつきむしの種類を話し合うのが楽しかった、植物の種の移動方法を知ることができた。

- 実際に歩いて調査し、ひっつきむしにも色々な種類があることを学んだ。
- ズボンにひっつきむしがいっぱい付いて驚いた。
- こんなに多くの種類があると思わなかった、新しいことを知ることができよかった。
- くっつき方に色々な付き方があることが分かり面白かった。
- タオルにアレチヌスビトハギを付けて遊んだこと、ルーペで観察して花や葉を見たこと。
- タオルのお絵描きでどんなやつを作ろうかなと思った。
- 高さを変えてタオルにひっつきむしを付けたのが面白かった。
- 10mの調査が面白かった、キンミズヒキの花は知っていたがひっつきむしと初めて知った
- 植物の細部まで観察できた。
- 日頃何気なく目にしている植物について詳しく教えてもらった、ひっつきむしにたくさんの種類があった。
- ルーペで見るとコセンダングサの先のかえしが見事だった。

親子連れの参加者

- 子供達と色々な木の実や枝の話をききながらひっつきむしを探したことが楽しかった。
- 普段特に意識していなかったが色々勉強になった、子供と一緒に参加でき楽しかった。
- 思っていた以上にひっつきむしの種類があった、植物の豆知識を知って子供たちが楽しんでいた。

リーダーやサブリーダーについて

- 楽しみながら植物が見られて面白かった、リーダーのお話が楽しかった。
- 先生の説明が分かりやすかった。
- リーダーの話が面白かった、植物に非常に詳しい人がいた。
- リーダーから面白い小ネタがきけた。
- サブリーダーのもとずんずん調べられた。
- 知らないことを多く教えてもらいとても勉強になった。
- 植物について色々解説を聞きながら調査でき興味深く参加できた。
- ヒキガエルやオナモミの絶滅など知らなかったことを知ることができた。

図15．調査リーダーによる植物解説（興正寺公園）

8. 活動アルバム

港区 荒子川公園

千種区 東山の森（ふれあいの森）

千種区 東山の森（うるおいの森）

千種区 城山八幡宮

千種区 東山の森（いのちの森）

千種区 東山の森（くらしの森）

千種区 茶屋ケ坂公園

千種区 東山の森（平和の森）

東区 千代田橋緑地

北区 名城公園

中区 名古屋城外堀

中村区 横井山緑地

西区 新川堤防

西区 庄内緑地

名東区 明徳公園

名東区 牧野ケ池緑地

名東区 猪高緑地

昭和区 興正寺公園

昭和区 鶴舞公園

熱田区 高蔵公園

中川区・港区 戸田川緑地（南・中央地区）

港区 戸田川緑地（南地区）

港区 荒子川公園

南区 呼続公園

南区 笠寺公園

守山区 小幡緑地

守山区 八竜湿地

守山区 東谷山フルーツパーク

守山区 翠松園緑地

緑区 大高緑地（花木園）

天白区 相生山緑地

緑区 大高緑地（つつじの道）

天白区 天白公園

緑区 みどりが丘公園

緑区 新海池公園

参加者名一覧(順不同)

青山 高士／浅井 昭枝／浅井 聡司／荒木 加代子／飯野 道彦／池谷 未来／石樽 純子／石黒 鐐三／石原 則義／磯村 照子／井土 清司／伊藤 健／伊藤 昌子／稲川 みき子／井上 恵介／今井 洸貴／今尾 由美／岩田 育純／岩月 邦文／岩間 初彦／上肥 寿美子／上田 理香／鵜飼 明歩／臼井 蓮奈／臼井 康人／臼井 有紀／梅本 洋子／大江 利江／大野 政博／大矢 晃／大矢 美紀／大矢 芳樹／岡島 栄子／岡田 美樹／岡村 真司／岡本 鈴枝／小川 敦己／小川 貴子／小川 直己／小川 尚子／小川 康弘／小田 光生／尾上 皓／梶川 婦美子／樫野 悦子／樫野 英明／加藤 健司／加藤 聖子／加藤 楓菜／川口 友規江／河崎 貞光／川嶋 寛文／川本 義博／北川 俊彦／北野 雄志／鬼頭 洋子／杵鞭 俊／杵鞭 丞／木村 えま／木村 多美子／日下部 康彦／熊澤 慶伯／黒田 清典／河野 秀真／小林 純子／小林 真理子／小林 好和／近藤 記巳子／近藤 輝彦／近藤 尚子／近藤 寛倫／近藤 光将／近藤 芽衣／榊原 成典／櫻井 玲子／櫻谷 保之／佐々木 千佳子／佐々木 英機／佐藤 心／佐藤 静／佐藤 真／佐藤 裕美子／Sahat Ratmuangkhnang／柴田 千年／柴田 元／柴山 紗智子／渋谷 拓徒／渋谷 朋未／島岡 けい子／白井 達也／白井 千賀／新山 雅一／鈴木 瑞穂／鷲見 順子／髙木 信雄／瀧川 正子／滝田 久憲／田京 弘一／田口 綾音／武田 一虎／武田 淳／竹本 清子／田澤 健治／谷 幹雄／谷口 祐子／田畑 恭子／千葉 糸乃／柘植 実／津田 信六／寺尾 友花里／研谷 厚／戸崎 智文／内藤 善一／仲井 進／中島 翔／中島 民子／中島 典子／中島 保夫／中島 稜太／西部 めぐみ／西村 佳祐／西村 由美／布目 均／野田 竜太／橋本 啓史／橋本 裕行／橋本 美保／長谷川 直之／巾 賢治／幅口 進／濱中 美季／林 敬士／原 美津子／原田 誠／伴 知幾／半澤 はるか／半澤 悠司／坂野 行正／平松 美捕／深田 仁／福岡 潔／福田 利夫／藤岡／藤原 純子／舩橋 泰彦／古川 則夫／古川 文子／古田 利夫／古谷 耕二／星 克己／細江 初奈／堀田 恭史／堀 隆行／堀 桃香／前川 ゆきよ／前野 圭子／松本 直子／間野 隆裕／眞弓 浩二／御厨 彩可／水野 忠／宮本 利子／宮本 光／三輪 謙太郎／村田 清／村土 瑛斗／村土 友美／村土 伶斗／村松 正雄／森 光宏／森川 初美／守口 幸一／安井 弘／安井 房子／安田 和代／柳本 光義／山川 清／山下 哲範／山田 やえ子／山田 祐子／山田 祥夫／山田 義哲／山根 かをり／山本 晃久／山本 航平／山本 佑紀／横井 進／横山 伸吾／横山 悠理／吉野 奈津子／脇田 剛／渡辺 滋子／渡辺 志奈子／渡辺 順一／株式会社サンゲツ【保田 貴博／宇都 和久／栗野 直樹／花澤 みどり／吉野 智昭／佐藤 弘将／中石 友章／平井 竜太郎／林 達郎／遠藤 正利／遠藤 敦子／白戸 良子／白戸 應介／内田 美穂】

参加団体一覧(順不同)

相生山緑地自然観察会／愛知守山自然の会／大高緑地湿地の会／株式会社サンゲツ／白玉星草と八丁トンボを守る会／水源の森と八竜湿地を守る会／雑木林研究会／滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会／天白公園整備クラブ／戸田川みどりの夢くらぶ／中志段味の自然を次世代に伝える会／名古屋自然観察会／名古屋市みどりの協会／名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち／なごや東山の森づくりの会／花水緑の会／二つ池の自然と緑を守る会／名東自然倶楽部／もりづくり会議／山崎川グリーンマップ

調査に参加いただいた市民の皆様、参加団体の皆様、ご協力ありがとうございました。

なごや生きもの一斉調査2019 ～ひっつきむし編～　報告書

発行:なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局:名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066　名古屋市天白区元八事五丁目230番地　TEL:052-700-7792　FAX:052-839-1695

監修:芹沢俊介(愛知教育大学名誉教授)　編集:西部めぐみ(なごや生物多様性センター)

2020年9月発行